

平成 2 3 年度

(平成 2 2 年度統計)

事 業 概 要

Bulletin of Meat and Poultry Inspection

【創立 4 0 周年記念号】

岐 阜 県 食 肉 衛 生 検 査 所

Gifu Prefectural Meat Inspection Office

創立40周年記念にあたって

本年3月11日に東北地方で「東日本大震災」が発生し、地震と津波により未曾有の被害をもたらし、多くの尊い命が失われました。未だに避難を余儀なくされている方々も多数みえ、御見舞いと哀悼の意を申し上げます。

ところで、本年は、当検査所の前身である「大垣食肉衛生検査所」が創立されてから40年、「岐阜県食肉衛生検査所」に改称し、単独庁舎に移転してから20年という節目の年に当たります。

振り返ってみますと、昭和46年に岐阜県西濃地域の食肉衛生の専門機関として大垣保健所（現在の西濃保健所）内に「大垣食肉衛生検査所」が設置され、当初わずか5人の職員で業務を始めました。その後の食肉重要の拡大にともない、管内と畜場の検査頭数が増加し、平成3年4月に精密検査機能を充実強化し、県下の食肉の安全確保の拠点施設として、「岐阜県食肉衛生検査所」が当所に単独庁舎として新築移転されました。

この間、先輩方のたゆまぬ努力と精進により、今日の岐阜県食肉衛生検査所があるものと考えております。

食生活は、生命や健康の源であり、とりわけ食肉は大きなウエートを占めており、その安全確保は消費者にとって最大の関心事となっています。

そうした中、本年4月には、生食用食肉を原因とする腸管出血性大腸菌O111による広域食中毒が発生し、死者が4名、患者数181人に登り、社会とりわけ食肉業界に大きな影響を与えました。

これを機会に、厚生労働省において生食用食肉の規格基準化がされ、今後、と畜場におけると畜、解体プロセスの微生物制御が大きな課題となってきます。

また、昨年4月に宮崎県で発生した口蹄疫は、国内の畜産業界を震撼させ、未曾有の農業災害を引き起こしました。口蹄疫は全国どこでも起こりうる事態で、当所においては、と畜場への侵入防止やと畜場を起点とした感染拡大を防止するため、生体検査を強化するとともに、畜産関係部局と連携した初期対応の徹底を図っていきます。

当所では食肉の安全確保のために、と畜・食鳥検査による疾病の排除、BSEスクリーニング検査の全頭実施に加え、食肉中の残留有害物質のモニタリング検査や微生物検査を実施して、食肉の安全、安心確保に取り組んでいます。

今後とも、検査技術の一層の向上を図り、厳正なと畜検査及び食鳥検査を実施するとともに、畜産関係機関と連携を図って「生産から食卓までの一貫した衛生管理（Farm to Table）」に基づき、一層の食肉の安全確保に努めていく所存です。

ここに平成23年度の事業概要（平成22年度統計）を創立40周年記念版としてとりまとめましたので、ご高覧いただければ幸いです。

平成23年9月

岐阜県食肉衛生検査所
所長 後藤 判友

食肉衛生検査所

創立40周年記念

写真で見る食肉衛生検査所	1
新庁舎竣工式次第	2
写真で見る当時の現場	3
新聞記事でみる食肉衛生検査所	4
新聞記事でみる食肉に関する重大事件	
B S E	5
高病原性鳥インフルエンザ	6
口蹄疫	7
東北大震災・放射能汚染	7
腸管出血性大腸菌	7
記念誌発行状況	8

事業概要

写真で見る食肉衛生検査所

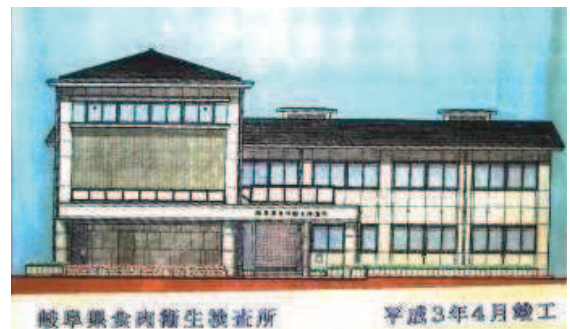


現西濃保健所

昭和46年4月1日から
平成3年3月31日まで
大垣保健所(現西濃保健所)内
の一角にて業務遂行



平成3年3月29日 新庁舎竣工



庁舎鳥瞰図



平成3年5月18日竣工記念式典



当時の職員

平成3年5月18日 食肉衛生検査所 新庁舎 竣工式式典

食肉衛生検査所竣工式

内容等

- (1) 名 称 食肉衛生検査所竣工式
(2) 実施月日 平成3年5月18日(土) (雨天決行)
(3) 実施場所 大垣市林町3丁目167-1 食肉衛生検査所
式典会場 — 研修室(3階)
祝賀会場 — 事務室(1階)
(4) 主催者 生活衛生課・食肉衛生検査所
(5) 出席者 招待者 62名 主催者 29名 [別紙]

3 式次第

○ 式典(3階研修室) 10:00~10:30

(司会)	生活衛生課総括課長補佐
開会の辞	衛生環境部長
式辞	知事
建設経緯報告	技術参事兼生活衛生課長
感謝状贈呈	知事
来賓祝辞	厚生省(生活衛生局長)
	県議会議長
	地元市町代表(大垣市長)
来賓紹介	(司会)
祝電披露	(司会)
謝辞	所長
閉会の辞	衛生環境部次長

○ 施設見学等 10:30~10:50

施設見学	案内(所長、食肉検査監)
------	--------------

○ 祝賀会(1階事務室) 10:50~11:30

	(司会 食肉検査監)
開会の辞	所長
乾杯	地元県議代表(木村 県議)
祝宴	
万歳三唱	養老町長

写真で見る当時の現場



生体検査



内臓検査



枝肉検査



平成4年4月1日から食鳥検査を実施
生体検査



脱羽後検査及び内臓摘出後検査

新聞記事でみる食肉衛生検査所

大垣市林町に完成した県最新の精密検査設備を備え、食肉衛生検査所の完成式典が十八日、梶原拓知事らが出席して同所で行われた。

県食肉衛生検査所でも式典 大垣市

最新の精密検査設備を備え、県下食肉検査の拠点として期待を集めている。西濃総合庁舎に設置されていた大垣食肉衛生検査所が、食肉の需要増大などで手狭になったことから昨年八月、建設に着手。併せて組織を改正し、県下と殺場五カ所の食肉精密検査を同所で行えるようにした。有害物質検査や家畜の疾病研究など、全国有数の施設・設備規模を誇る。敷地面積は約千百平方メートル。鉄筋コンクリート三階建てで一階は事務室、二階は各種検査室、三階は研修室。総事業費は約三億三千五百万円。職員はと畜検査員十七人と事務職員二人。式典には梶原知事、浅野庄一県議会議長、地元選出県議、小倉満大垣市長ら関係者約六十人が出席し完成を祝った。



支阜県食肉衛生検査所竣工式
県食肉衛生検査所の完成式典であいさつする梶原拓知事—大垣市林町

H 3.5.19 岐阜新聞

「岐阜新聞社提供」

食の安全知識、将来に生かす



県食肉検査所で インターンシップ

岐阜大生2人

食肉の安全にかかわる業務を理解しようと、大垣市林町の県食肉衛生検査所で、岐阜大学応用生物科学部獣医学課程の学生2人がインターンシップに励んでいる。

24日は病理検査の実習をする。24日は病理検査の実習で、牛白血病の病変部分をガラス板に押しつけ、染色し標本をつくり、顕微鏡で観察するなどの実習を行った。二人は「食の安全に直接つながっているが、あまり知られていない獣医師の仕事なので、貴重な体験です」と話していた。
(中村芳紀)

インターンシップで、病理標本を制作する松野望美さん(右)と後藤みなみさん(左) 大垣市林町、県食肉衛生検査所
インターンシップは大学と県が今年7月に締結した協定に基づき、今回初めて行われた。参加しているのは、いずれも同課程5年生の松野望美さん(同市出身)と後藤みなみさん(可見市出身)。27日まで業務を体験

H 22.8.25 岐阜新聞

「岐阜新聞社提供」

新聞記事でみる食肉に関する重大事件

● BSE



H 13.9.11 中日新聞



H 13.9.19 中日新聞



H 13.10.19 中日新聞

「3件の記事は中日新聞社の許諾を得て転載しています」

● 高病原性鳥インフルエンザ（国内79年ぶりに発生）



H 16.1.13 中日新聞



H 16.2.29 中日新聞

「2件の記事は中日新聞社の許諾を得て転載しています」

- **口蹄疫**（明治41年に関西・中国地方で発生が見られた以降、初めて平成12年に発生、終息していたが、平成22年3月宮崎県において発生、平成22年7月終息確認された）



H 22.5.11 中日新聞

「この記事は中日新聞社の許諾を得て転載しています」

- 口蹄疫の感染が疑われた家畜約27万6000頭の処分が6月30日完了しその旨に関する新聞記事が7/1～7/2に掲載された。

- **東北大震災・放射能汚染**

- H 23.3.11 東日本大震災発生
観測史上最大規模、マグニチュード9.0を記録。東北地方と関東地方の太平洋沿岸部は壊滅的な被害が発生。場所によっては、津波の遡上高が40m以上となった。死者・行方不明者約2万人。
- H 23.3.12 東京電力福島原子力発電所1号機建屋において水素爆発が発生。
周辺でセシウムが検出され、核燃料の一部が溶け出した可能性があると発表された。
- H 23.7.8 東京都が、福島県南相馬市内の畜産家出荷した黒毛和牛の肉から放射性セシウムを検出したと発表。
- H 23.7.10 福島県と農林水産省が農家を実地調査した結果、わらからかなり高濃度の放射性セシウムを検出。

- **腸管出血性大腸菌 O 111 起因食中毒**

- H 23.4.27 福井県にある焼肉チェーン店で食事をした男児が死亡。
腸管出血性大腸菌 O 111 が検出された。
- H 23.5.5までの間に同じ焼肉チェーンの富山県にある店で食事をした者3名が相次いで死亡。

記念誌発行状況



目 次

食肉衛生検査所の概要

1 沿革	1
2 職員名簿	2
3 土地・建物の概要	3
4 組織及び職員構成（平成23年度）	4
5 主な検査備品	5

検査業務の概要

第I章 と畜検査

1 県内と畜場配置図	7
2 県内と畜場の検査概要	8
(1) 各と畜場の現況と検査機関	8
(2) 県と畜検査手数料一覧	8
(3) 所管と畜場の検査対応状況	8
(4) 検査実施日数	8
3 検査頭数	9
(1) 年度別と畜検査頭数（30年間統計）	9
(2) と畜場別検査頭数（30年間統計）	12
養老町立食肉事業センター	12
大垣食肉供給センター	13
(3) と畜場別検査頭数	14
(4) 岐阜県食肉衛生検査所と畜検査頭数の割合	15
(5) 月別と畜場別検査頭数	16
(6) 産地（都道府県）別検査頭数	18
4 検査結果及び措置状況	20
(1) 検査結果に基づく処分状況（20年間統計）	20
牛（とくを除く）	20
豚	21
馬	22
とく	23
子馬	24
めん羊・山羊	25
(2) 畜種別・原因別措置状況（20年間統計）	26
牛（とくを除く）	26
豚	28
馬	30
とく	32
子馬	34
めん羊・山羊	34
(3) 畜種別病変状況	35
5 切迫・病畜検査状況	38
(1) 切迫原因及び出荷地別検査頭数（20年間統計）	38
① 切迫原因別検査頭数	38
② 出荷地別検査頭数	39
(2) 病畜の出荷地別検査頭数（20年間統計）	40

第Ⅱ章 食鳥検査

1 県内食鳥処理場配置図	4 1
2 食鳥処理場の検査概要	4 2
(1) 各食鳥処理場の現況と検査機関	4 2
(2) 食鳥検査手数料	4 2
(3) 所管食鳥処理場の検査対応状況	4 2
(4) 検査実施日数	4 2
3 検査羽数	4 3
(1) 年度別食鳥検査羽数（食鳥検査制度創設からの統計）	4 3
(2) 処理場別検査羽数（食鳥検査制度創設からの統計）	4 4
(3) 県内処理場別検査羽数	4 5
(4) 岐阜県食肉衛生検査所食鳥検査羽数の割合	4 5
(5) 月別処理場別検査羽数	4 6
4 検査結果及び措置状況	
(1) 検査結果に基づく処分状況（食鳥検査制度創設からの統計）	4 7
(2) 種類別・原因別措置状況（10年間統計）	4 9

第Ⅲ章 精密検査

1 牛海綿状脳症検査牛の年齢別頭数	5 1
2 牛海綿状脳症検査牛の生産県別頭数	5 2
3 牛海綿状脳症県内検査機関別頭数割合	5 2
4 精密検査実施状況	5 3
(1) と畜	5 3
(2) 食鳥	5 4
5 食肉中の残留有害物質モニタリング検査結果	5 5
6 病畜獣等における残留抗菌性物質検査結果	5 8
7 と畜場における衛生管理の向上対策事業	5 9

第Ⅳ章 調査研究・その他の業務

1 学会等発表	6 2
2 調査研究	6 9
・カンピロバクター培養法の検討について	6 9
・ベロ毒素（VT）遺伝子を用いたと場の衛生管理について	7 2
・牛の肺と腎臓にみられた線維肉腫	7 5
・牛白血病の特異症例について	7 7
・モニタリング検査で抗生物質の混入を疑った事例について	7 9
・モニタリング検査（簡易検査法）陽性時の原因物質確認のための一手法の提案	8 2
3 その他の業務	8 6
(1) インターンシップ事業	8 6
(2) 視察・見学等の受け入れ	8 6
(3) 実習材料の提供	8 6
4 平成22年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会開催結果	8 8
5 食肉衛生検査所歴代職員名簿	省略

検査所の概要

Summary of the Offise

1 沿革

History of Office

- 昭和46年4月1日：従前、保健所が所掌していた県下6と畜場のうち、養老町立と畜場（昭和10年1月開設、現養老町立食肉事業センター）及び私営田中ハムと畜場（昭和40年2月開設、現大垣食肉供給センター協同組合）を所掌する**大垣食肉衛生検査所を1係制で西濃総合庁舎内に設置**
- 昭和48年4月1日：岐阜県行政組織規則の一部改正により、検査第1係・検査第2係の2係制となる
- 昭和50年4月1日：岐阜県行政組織規則の一部改正により、次長を新設
- 昭和53年4月1日：岐阜県行政組織規則の一部改正により、次長及び2係制を廃止。次の2課2係制を設置
検査指導課 検査指導係 精密検査課 精密検査係
- 昭和59年4月1日：岐阜県行政組織規則の一部改正により、食肉検査監を新設
- 昭和63年：「食肉衛生検査体制の整備に関する調査・検討」が実施され、大垣食肉衛生検査所を発展的に改組し、全県的な精密検査の一元化を図るための新たな食肉衛生検査所の建設についての方針が打ち出される
- 平成元年：建設用地（県有地）の確保とともに建設費（2年継続費）を予算化
- 平成2年8月10日：大垣食肉衛生検査所建設工事着工
- 平成3年3月29日：大垣食肉衛生検査所建設工事竣工（総事業費 3億9,700万円）
- 平成3年4月1日：岐阜県行政組織規則の一部改正により、大垣食肉衛生検査所が**岐阜県食肉衛生検査所**に改組され、新たに総務係を設置
- 平成4年4月1日：「食鳥処理の事業規制及び食鳥検査に関する法律」の施行により食鳥検査を開始
岐阜県行政組織規則の一部改正により、検査指導係を廃止し、検査指導第一係と検査指導第二係を設置
- 平成8年4月1日：岐阜県行政組織規則の一部改正により、総務係を廃止し、総務課を設置
- 平成12年4月1日：岐阜県行政組織規則の一部改正により、総務課を管理課に変更
- 平成13年10月18日：牛海綿状脳症（BSE）のスクリーニング検査開始
- 平成15年4月1日：岐阜県行政組織規則の一部改正により、検査指導第一係、検査指導第二係及び精密検査係を廃止し検査指導第一担当、検査指導第二担当及び精密検査担当を設置
- 平成18年4月1日：岐阜県行政組織規則の一部改正により、管理課を総務課に変更
- 平成19年2月22日：大垣食肉供給センターがと畜業務を休止
- 平成19年9月10日：岐阜県食肉衛生検査所機関紙「食肉検査だより」を創刊
- 平成23年4月1日：食肉検査監が検査指導課長を兼務

○職員数の推移（現員）

（H23.6.1現在）

年度 区分	年度																													
	昭和49	50	51 52	53 54	55	56 61	62	63	平成元	2	3	4	5	6	7	8	9 10	11 12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
一般職員	8	9	10	12	13	15	14	16	17	16	17	21	20	21	22	23	24	23	23	21	22	24	24	23	21	17	17	16	18	
臨時獣医師								1	2										3	4	1		1	1	2	2	2	2	2	
非常勤獣医師	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
合計	9	10	11	13	14	16	16	19	21	18	19	23	23	25	26	27	28	27	30	29	27	28	29	28	27	23	23	22	24	

2 職員名簿

平成23年6月1日現在

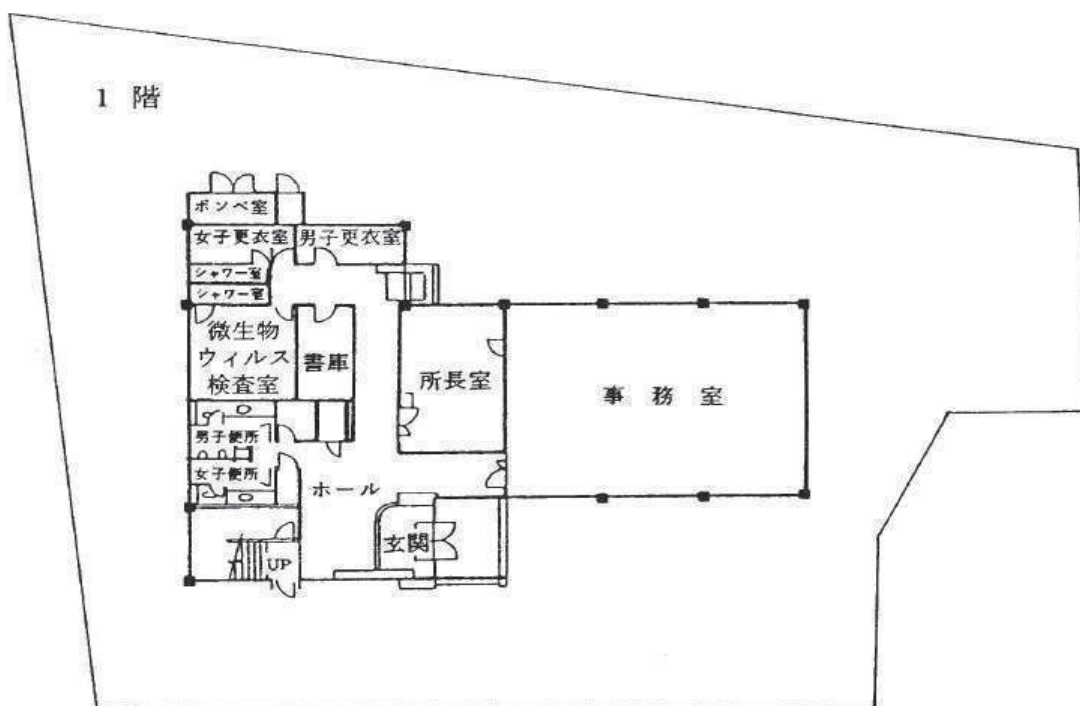
課名	補職名	氏名	精密検査体制 ・理化学検査 6人 ・微生物検査 5人 ・病理検査 4人
所	長	後藤判友	
食肉検査監兼検査指導課長		和座厚	
総務課	課長	瀬川敬	
	主任	広瀬陽子	
検査指導課	(兼)課長	和座厚	
検査指導 第一担当	技術課長補佐	坂下幸久	理化学
	主任技師	水谷健士	病理
	技師	丸山美香	理化学
	技師	木村佳織	理化学
	臨時獣医師	藤井勇紀	理化学(5/2~)
検査指導 第二担当	技術課長補佐	堀 ゆかり	病理
	技術主査	豊吉良成	微生物
	主任技師	斉藤愛	理化学
	技師	近藤修	理化学
	臨時獣医師	伊藤祐有	微生物(5/16~)
精密検査課	課長	清水義則	
精密検査 担当	技術課長補佐	亀山芳彦	微生物
	技術主査	奥村拓矢	病理
	主任技師	藤田恵子	微生物
	技師	井上鉦子	微生物
	技師	松尾加代子	病理
保健衛生非常勤獣医師		野村 淳	
		影山 考常	
		柳原 英和	
		小塩 静夫	

3 土地・建物の概要

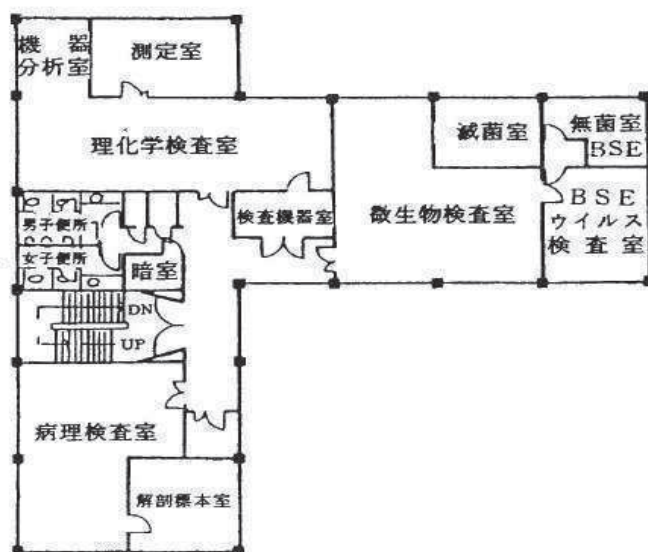
Ground Plan of the Office

- (1) 所在地 岐阜県大垣市林町3丁目167番地の1
- (2) 土地 ・面積 1,096.47 m²
- (3) 建物 ・構造 鉄筋コンクリート造ステンレス鋼板葺 3階建
 - ・面積 延べ面積 913.23 m²
(1階 335.36 m²) (2階 411.30 m²) (3階 166.57 m²)

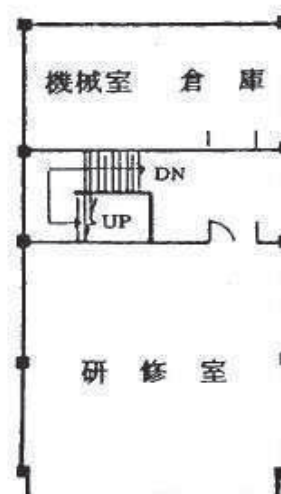
平面図・配置図



2 階



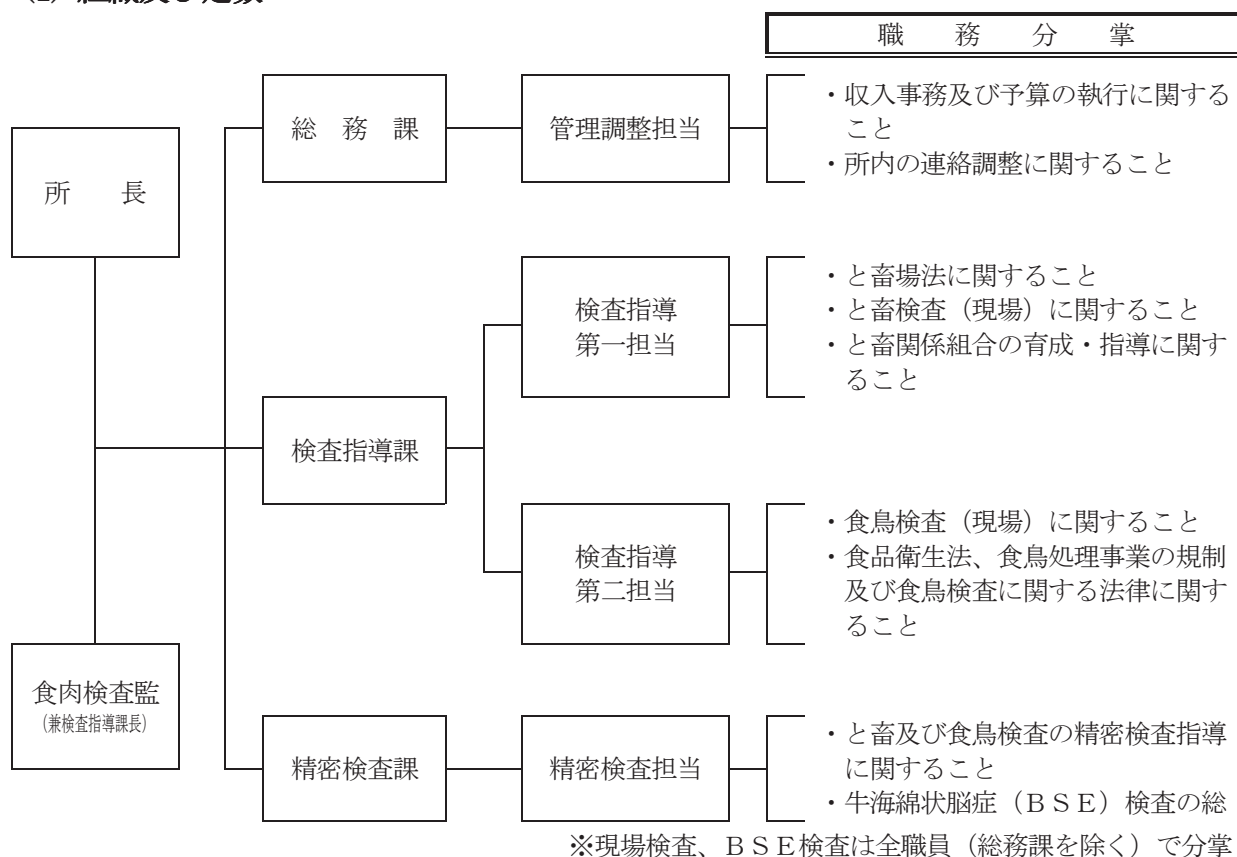
3 階



4 組織及び職員構成（平成23年度）

Organization of the Office and Deployment of Staff Members

(1) 組織及び定数



(2) 職員構成（【 】内は定数）

区 分	事務吏員	技術吏員	臨時獣医師	非常勤獣医師	計
所 長	—	1【1】	—	—	1【1】
食 肉 検 査 監	—	1【1】	—	—	1【1】
総 務 課	2【2】	—	—	—	2【2】
検 査 指 導 課	—	8【10】	1	4【4】	13【14】
精 密 検 査 課	—	6【6】	1	—	7【6】
計	2【2】	16【18】	2	4【4】	24【24】

5 主な検査備品

List of Instruments for Examination

(1) 微生物関係

品名	メーカー及び型式	台数	取得年月
炭酸ガスインキュベーター	SANYO MCO-175	1	H 4. 3
細胞破碎装置		1	H13. 10
ストマッカー	Lab-blender 400T	1	H 5. 7
PCR法解析装置	島津製作所 電気泳動装置 MCE-202 Multina 他	1	H21. 10
超純水製造装置	Millipore Milli-Q-Labo	1	H 8. 10
インキュベーター	三洋 MIR-254	1	H21. 7
安全キャビネット	(株)ダルトン NSC-II B3-1200	1	H14. 3
電子上皿天秤	ザルトリウス TE153S	1	H21. 12
ふ卵器	三洋電機 MIR-254	1	H21. 11
感熱滅菌器	ヤマト科学株 SI601	1	H21. 11
オートクレーブ	トミー精工 LSX-500(500L)	1	H22. 2
超低温フリーザー	サンヨー MDF-394AT	1	H22. 2

(2) 病理関係

品名	メーカー及び型式	台数	取得年月
クリオスタット	サクラ精機 CM-501	1	H 3. 4
パラフィンブロック作製装置	白井松機器 ヒストセンターII	1	H 3. 4
動物環境制御装置	柴田化学 BECSEA-S	1	H 3. 4
蛍光顕微鏡	オリンパス BH-2	1	H 3. 4
位相差顕微鏡	オリンパス BH2-PC	1	H 3. 6
標本保存真空パック装置	日本ポリセロ工業 B-100	1	H 3. 7
光学顕微鏡装置	オリンパス光学 BX50-34	1	H10. 7
全自動顕微鏡写真撮影装置	オリンパス光学 PM30-3	1	H10. 7
自動固定包埋装置	サクラファインテックジャパン ティッシュ・テック VIP5	1	H15. 7
顕微鏡撮影用デジタルカメラシステム	オリンパス NY-E510 スーパーシステム	1	H20. 5
システム生物顕微鏡	オリンパス BX51N-33MDO-3 ディスカッション装置付き	1	H21. 12
冷凍庫	三洋電機 HDF-236(221L)	1	H21. 11
大型滑走マイクロトーム	大和光機 REM-710	1	H22. 2

(3) B S E 関係

品名	メーカー及び型式	台数	取得年月
安全キャビネット	(株)ダルトン NSC-II B3-1200	1	H13. 10
多検体細胞破碎機	安井器械(株)マルチベースショッカー MB524TMA	1	H14. 3
微量高速冷却遠心機	トミー精工 MX-300	1	H13. 10
マイクロプレートリーダー	BIO-RAD モデル	1	H13. 10
薬用冷蔵ショーケース	SANYO MPR-514	1	H20. 12

(4) 理化学関係

品名	メーカー及び型式	台数	取得年月
自動血球計数装置	Erma PARTICLE COUNTER PC-604A	1	H 3. 4
蛍光光度計	HITACHI F-3010	1	H 3. 4
自動記録分光光度計	HITACHI U-3210	1	H 3. 4
蒸留水製造装置	アドバンテック GS-200	1	H 6. 4
原子吸光光度計	HITACHI 偏光ゼーマン原子吸光分光光度計 Z-6100 型	1	H 3. 9
ガスクロマトグラフシステム	島津製作所 GC-14A クロマトパック C-R4A	1	H 3. 10
臨床生化学分析装置	京都第一化学 スポットケム SP-441 スポットケムセントリフュージョン CF-9510	1	H 5. 7
高速冷却遠心機	トミー工業(株)	1	H 9. 9
高速液体クロマトグラフ装置	メトロン(株)	1	H10. 3
	島津製作所 LC-VP	1	H13. 10
ロータリーエバポレーターシステム	旭テクノグラス REN-1000VW (Vタイプガラス、ウォーターバス付)	1	H16. 6
振とう器	ヤマト科学シェーカー SA300	1	H21. 2
マイクロプレートリーダー	Tecan サンライズリモート PCセット	1	H21. 11
感熱滅菌器	ヤマト科学 S1601	1	H21. 11
PH測定器	東亜 DKK HM-30R	1	H21. 12
卓上遠心機	クボタ 4000	1	H21. 11
冷却遠心機	クボタ 5911	1	H21. 11
蒸留水製造装置	アドバンテック東洋 アクエリアス RFD-240RA	1	H21. 12
超音波洗浄機	日立国際電気エンジニアリング 分離型 30L	1	H22. 2
高速液体クロマトグラフ質量分析計	日本ウォーターズ(株) アライアンス LCMSZQ2000 システム	1	H22. 7

検査業務の概要

Outline of Meat and Poultry Inspection

第I章 と畜検査

Chapter I Meat Inspection

1 県内と畜場配置図

Location of Abattoirs in Gifu Prefecture



施設名	所在地	検印No	検査所からの距離	当所所管業務		
				現場検査	精密検査	BSE検査
養老町立食肉事業センター	養老郡養老町三神町 23	1	14km	○	○	○
(※)大垣食肉供給センター	大垣市室村町 1-3	11	4	○	○	○
関市食肉センター	関市西田原 458	2	31		○	○
飛驒食肉センター	高山市八日町 327	9	152		○	
岐阜市食肉地方卸売市場	岐阜市境川 5-148	1	14			

※ 大垣食肉供給センターは、平成19年2月22日から休止

2 県内と畜場の検査概要

Summary of Meat Inspection in Gifu Prefecture

(1) 各と畜場の現況と検査機関

区分 と畜場名	設置主体 (許可年月日)	施設		検査機関
		解体処理能力 頭/日	汚水処理能力 t/日	
養老町立 食肉事業センター	養老町 (S55.11.21)	大 70 中 290 (鉄筋コンクリート)	900 (活性汚泥)	岐阜県 食肉衛生検査所
大垣食肉供給センター (休止中)	大垣食肉供給センター協同組合 (S52.4.1)	大 30 中 360 (鉄筋コンクリート)	450 電解浮上 活性汚泥	
関市食肉事業センター	関市 (S52.4.11)	大 20 中 100 (鉄筋コンクリート)	250 (活性汚泥)	岐阜県 関保健所
飛騨食肉センター	飛騨ミート農業協同組合連合会 (H14.2.15)	大 70 (鉄筋コンクリート)	210 (活性汚泥)	岐阜県 飛騨保健所
岐阜市食肉 地方卸売市場	岐阜市 (S42.12.1)	大 75 中 110 (鉄筋コンクリート)	1,500 (活性汚泥)	岐阜市保健所 食肉衛生検査所

(2) 県と畜検査手数料一覧

(1頭:円)

区分	大動物	中動物	小動物	適用年月日
一般	720	360	120	平成元年4月1日
※病畜・切迫獣畜	1,300	650	260	平成8年4月1日

※病畜：と畜検査員が起立不能、歩行困難、呼吸困難と認める獣畜

(3) 所管と畜場の検査対応状況

と畜場名	受付時間	閉場日
養老町立食肉事業センター	月～土曜日 6:30～11:00	<ul style="list-style-type: none"> ・日曜日、祝祭日 ・年末年始 6日間 (12/29～1/3) ・その他 盆休3日間 慰霊祭1日 臨時休場 (月2回以上)

(4) 検査実施日数(平成23年度)

と畜場名	平日	土曜日	祝祭日等	計
養老町立食肉事業センター	214	25	12 (日曜日2日含む)	251

3 検査頭数

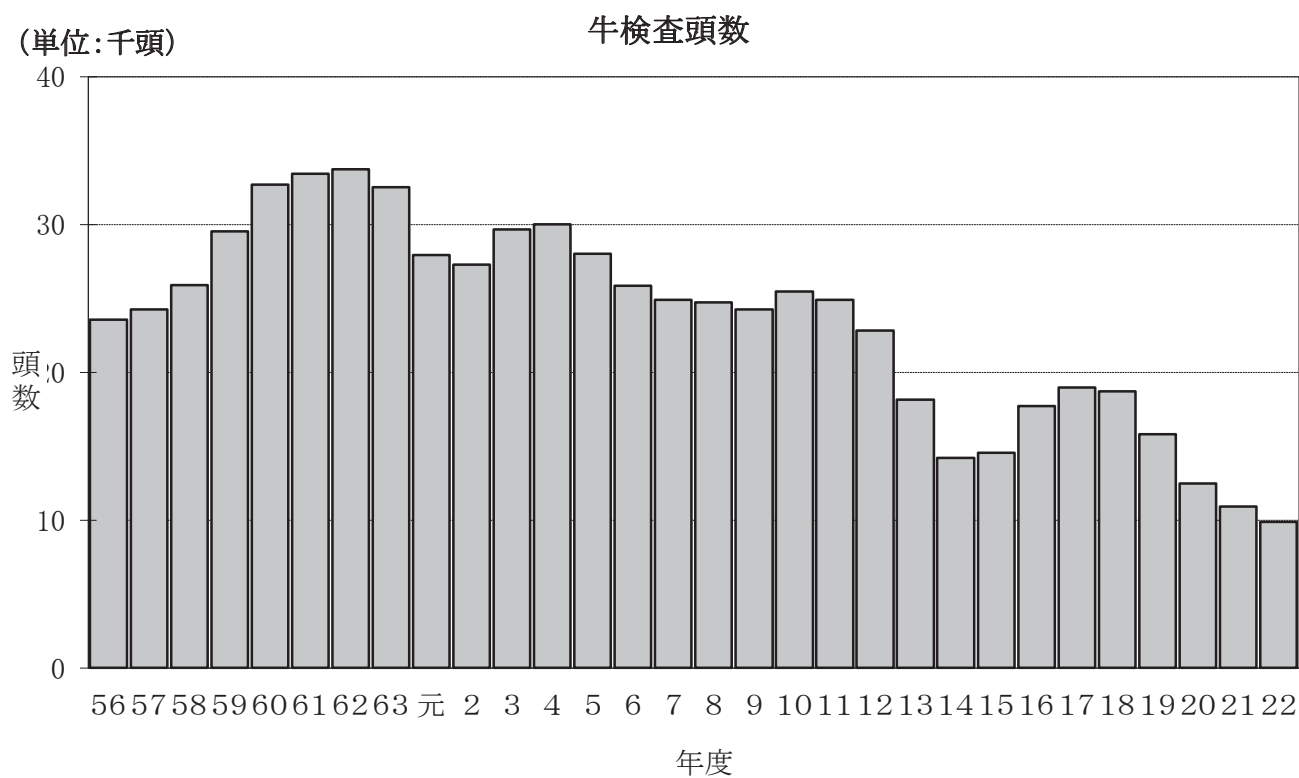
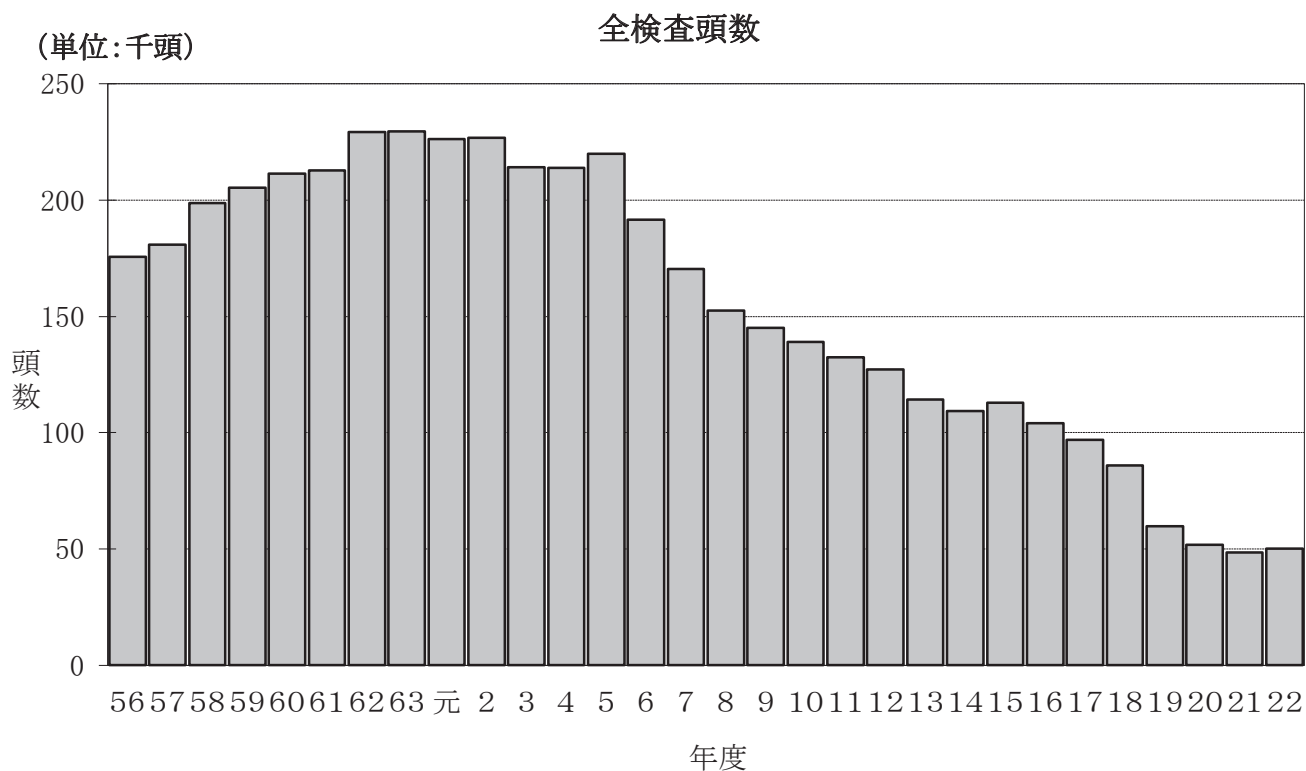
Number of Livestock Inspection

(1) 年度別と畜検査頭数(30年間統計)

区分 年度	計	種 別								
		牛			豚	馬	※ とく	子 馬	め ん 羊	山 羊
		乳用種	肉用種	計						
56	175,728	21,359	2,204	23,563	151,312	515	330	1	0	7
57	180,930	21,804	2,470	24,274	155,936	462	254	0	1	3
58	198,859	22,891	2,987	25,878	172,210	472	270	0	0	29
59	205,459	25,782	3,749	29,531	174,863	479	571	0	8	7
60	211,298	28,457	4,227	32,684	177,686	468	437	0	4	19
61	212,837	28,921	4,497	33,418	178,746	416	228	2	3	24
62	229,371	29,910	3,820	33,730	195,137	325	169	0	2	8
63	229,520	28,794	3,732	32,526	196,579	267	133	0	4	11
元	226,151	24,284	3,653	27,937	197,841	247	120	1	3	2
2	226,938	22,419	4,869	27,288	199,273	230	143	0	3	1
3	214,007	23,269	6,386	29,655	184,021	254	72	2	1	2
4	214,003	23,717	6,305	30,022	183,609	270	101	0	0	1
5	219,895	21,999	6,039	28,038	191,466	321	63	7	0	0
6	191,482	19,535	6,333	25,868	164,982	580	46	1	3	2
7	170,341	19,640	5,266	24,906	144,403	982	48	1	1	0
8	152,506	18,710	6,022	24,732	126,765	971	31	3	2	2
9	145,069	17,284	6,965	24,249	119,823	959	37	0	1	0
10	138,905	18,027	7,455	25,482	112,614	774	31	1	3	0
11	132,386	16,400	8,522	24,922	106,907	523	26	1	1	6
12	127,274	14,588	8,240	22,828	103,562	847	30	0	6	1
13	114,115	10,127	8,016	18,143	94,814	1,110	38	0	3	7
14	109,234	5,949	8,277	14,226	93,639	1,361	8	0	0	0
15	112,943	7,185	7,356	14,541	96,928	1,464	10	0	0	0
16	104,192	9,752	7,957	17,709	85,100	1,318	63	2	0	0
17	96,861	7,943	11,016	18,959	76,667	1,190	44	1	0	0
18	85,893	11,381	7,320	18,701	66,225	936	31	0	0	0
19	59,627	9,562	6,254	15,816	43,302	465	44	0	0	0
20	51,880	7,577	4,926	12,503	39,073	247	57	0	0	0
21	48,565	5,988	4,945	10,933	37,427	171	34	0	0	0
22	50,067	5,220	4,679	9,899	40,013	140	15	0	0	0

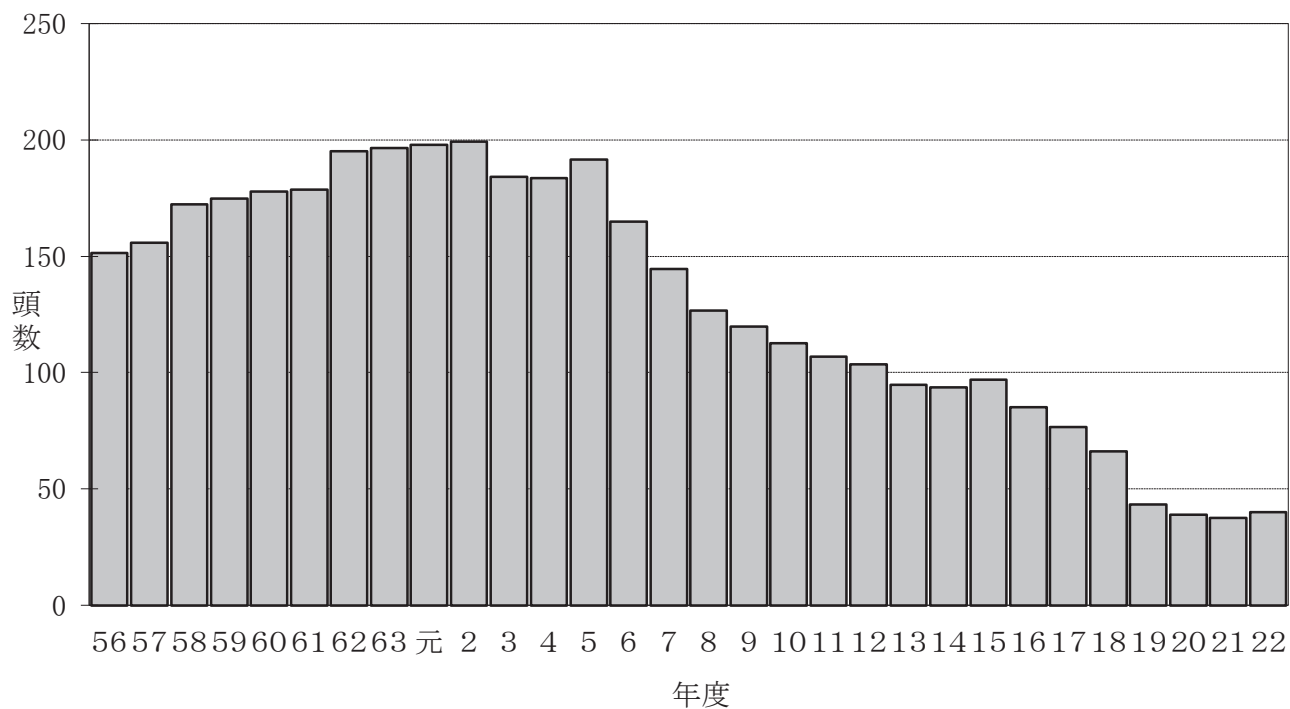
※とく:生後1年未満の牛

年度別と畜検査頭数の推移（30年間統計）



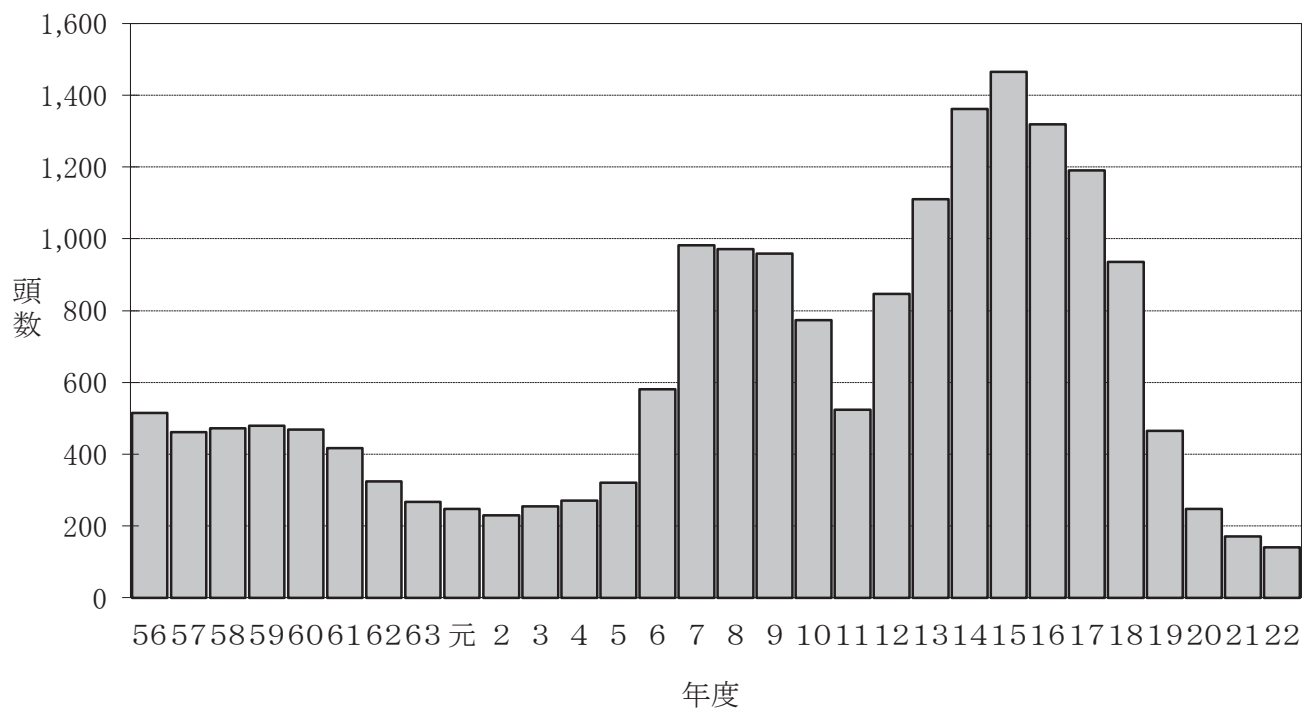
(単位:千頭)

豚検査頭数



(単位:頭)

馬検査頭数



(2) と畜場別検査頭数(30年間統計)

養老町立食肉事業センター

畜種 年度	計	種 別					
		牛	豚	馬	とく	子馬	めん羊・山羊
56	99,696	21,943	76,973	442	330	1	7
57	101,367	21,382	79,331	402	248	0	4
58	111,232	22,052	88,469	424	258	0	29
59	112,872	23,398	88,447	450	564	0	13
60	122,239	25,032	96,332	445	407	0	23
61	124,235	25,101	98,495	414	196	2	27
62	136,410	24,816	111,104	325	155	0	10
63	136,466	24,149	111,909	267	126	0	15
元	126,011	21,533	104,112	247	113	1	5
2	130,205	20,369	109,471	230	131	0	4
3	130,447	21,471	108,647	254	70	2	3
4	125,198	19,737	105,099	269	92	0	1
5	131,303	18,459	112,458	321	58	7	0
6	114,550	18,649	95,277	578	40	1	5
7	104,529	18,564	84,933	982	48	1	1
8	91,257	18,757	71,497	971	25	3	4
9	83,724	19,111	63,620	959	33	0	1
10	80,479	21,178	58,492	774	31	1	3
11	77,048	20,874	55,617	523	26	1	7
12	72,717	18,951	53,213	517	29	0	7
13	61,130	13,892	46,802	389	37	0	10
14	58,768	10,167	48,190	403	8	0	0
15	65,389	10,001	54,980	399	9	0	0
16	62,605	13,566	48,612	367	58	2	0
17	60,138	14,702	45,009	383	43	1	0
18	56,651	15,484	40,765	371	31	0	0
19	59,627	15,816	43,302	465	44	0	0
20	51,880	12,503	39,073	247	57	0	0
21	48,565	10,933	37,427	171	34	0	0
22	50,067	9,899	40,013	140	15	0	0

大垣食肉供給センター

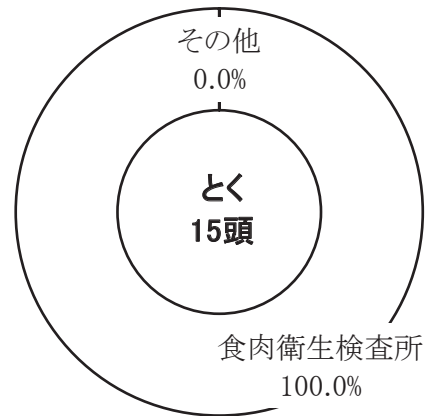
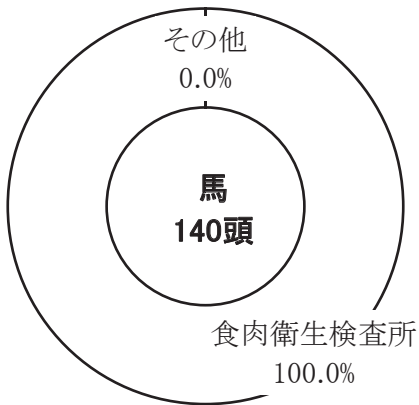
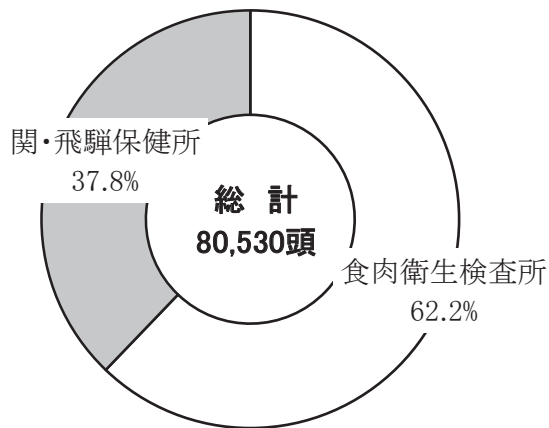
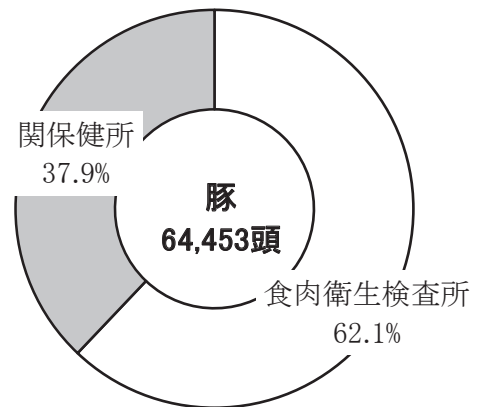
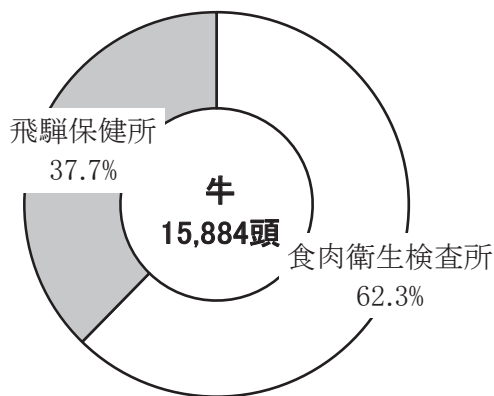
畜種 年度	計	種 別					
		牛	豚	馬	とく	子馬	めん羊・山羊
56	76,032	1,620	74,339	73	0	0	0
57	79,563	2,892	76,605	60	6	0	0
58	87,627	3,826	83,741	48	12	0	0
59	92,587	6,133	86,416	29	7	0	2
60	89,059	7,652	81,354	23	30	0	0
61	88,602	8,317	80,251	2	32	0	0
62	92,961	8,914	84,033	0	14	0	0
63	93,054	8,377	84,670	0	7	0	0
元	100,140	6,404	93,729	0	7	0	0
2	96,733	6,919	89,802	0	12	0	0
3	83,560	8,184	75,374	0	2	0	0
4	88,805	10,285	78,510	1	9	0	0
5	88,592	9,579	79,008	0	5	0	0
6	76,932	7,219	69,705	2	6	0	0
7	65,812	6,342	59,470	0	0	0	0
8	61,249	5,975	55,268	0	6	0	0
9	61,345	5,138	56,203	0	4	0	0
10	58,426	4,304	54,122	0	0	0	0
11	55,338	4,048	51,290	0	0	0	0
12	54,557	3,877	50,349	330	1	0	0
13	52,985	4,251	48,012	721	1	0	0
14	50,466	4,059	45,449	958	0	0	0
15	47,554	4,540	41,948	1,065	1	0	0
16	41,587	4,143	36,488	951	5	0	0
17	36,723	4,257	31,658	807	1	0	0
18	29,242	3,217	25,460	565	0	0	0
19	休			止			
20	休			止			
21	休			止			
22	休			止			

(3) と畜場別検査頭数

(平成22年度)

と畜場名	計	種別						
		牛	豚	馬	とく	子馬	めん羊	山羊
養老町立食肉事業センター	50,067	9,899	40,013	140	15	0	0	0
大垣食肉供給センター	休止中							
小計	50,067	9,899	40,013	140	15	0	0	0
関市食肉センター	24,478	0	24,440	0	0	0	38	0
飛騨食肉センター	5,985	5,985	0	0	0	0	0	0
計	80,530	15,884	64,453	140	15	0	38	0

(4) 岐阜県食肉衛生検査所と畜検査頭数の割合



(5) 月別と畜場別検査頭数

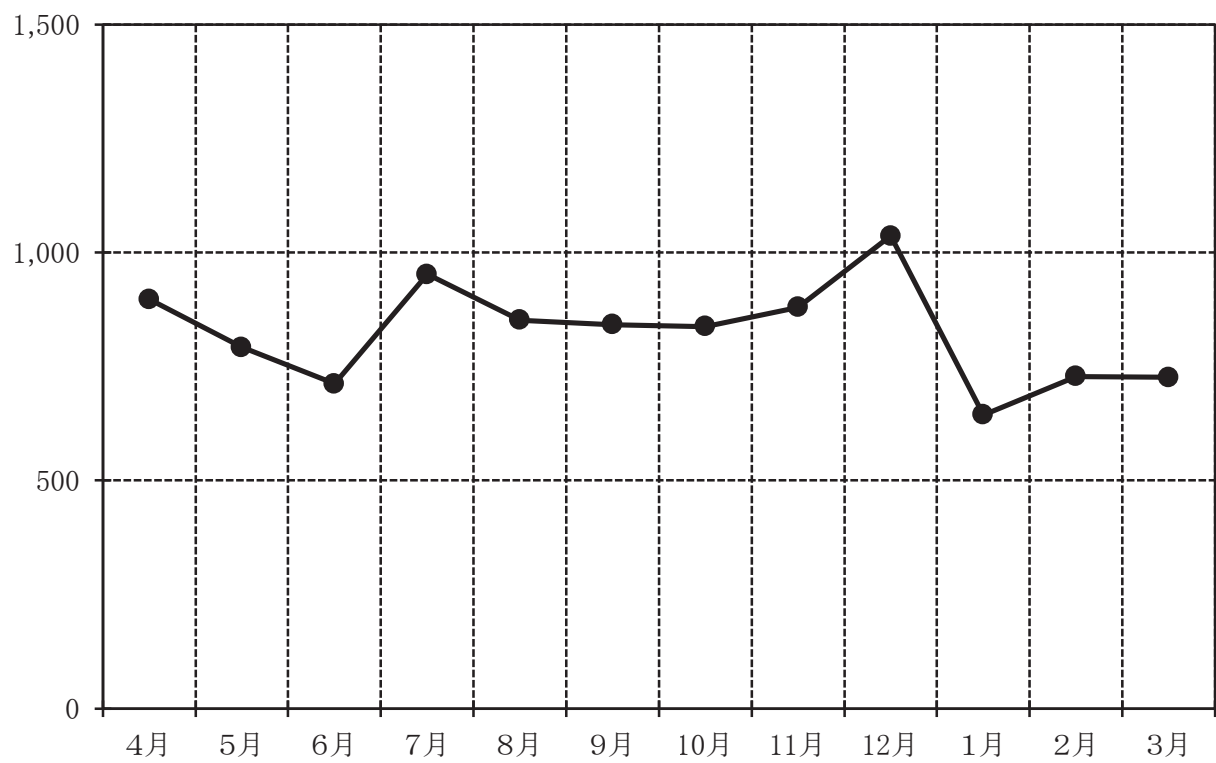
養老町立食肉事業センター

(平成22年度)

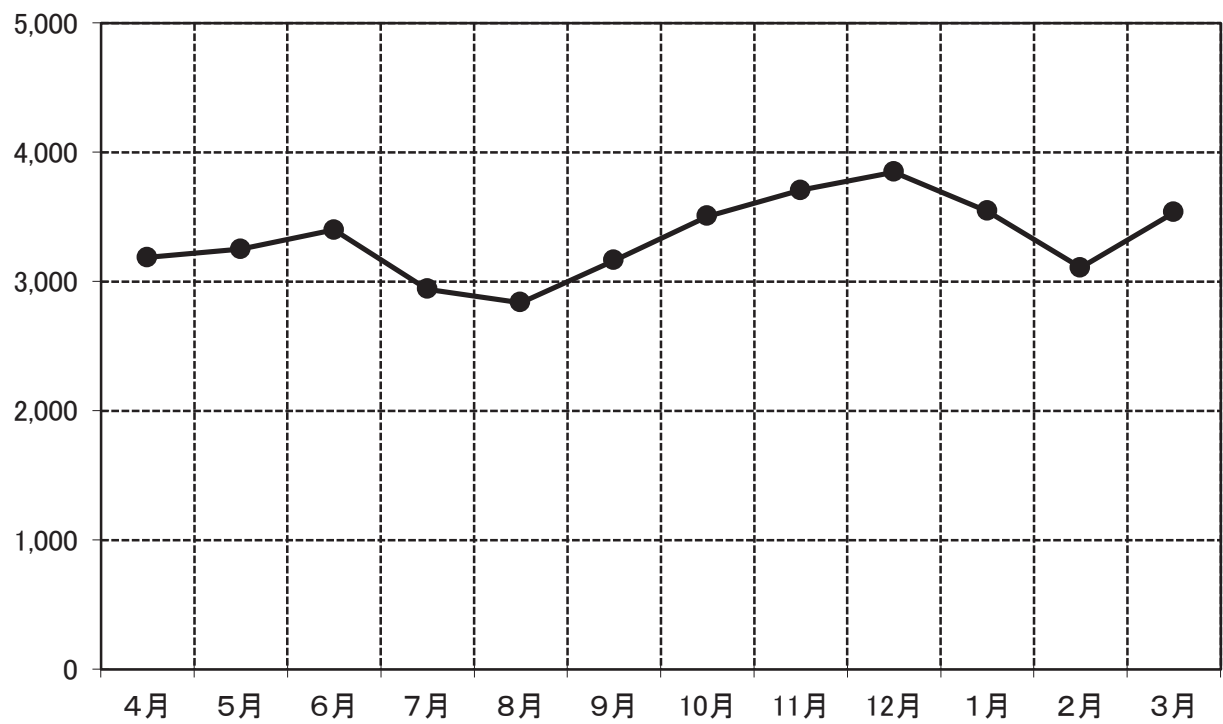
畜種		計	種 別								
月	開場 日数		牛			豚	馬	とく	子馬	めん羊	山羊
			乳用種	肉用種	計						
4	20	4,101	446	451	897	3,186	16	2	0	0	0
5	21	4,052	411	381	792	3,249	10	1	0	0	0
6	21	4,120	384	328	712	3,397	11	0	0	0	0
7	22	3,904	510	442	952	2,939	11	2	0	0	0
8	20	3,702	464	388	852	2,837	12	1	0	0	0
9	20	4,017	514	328	842	3,162	12	1	0	0	0
10	21	4,351	447	391	838	3,504	9	0	0	0	0
11	22	4,596	451	429	880	3,706	10	0	0	0	0
12	22	4,910	497	539	1,036	3,847	24	3	0	0	0
1	20	4,197	348	296	644	3,544	8	1	0	0	0
2	19	3,845	357	371	728	3,107	9	1	0	0	0
3	22	4,272	391	335	726	3,535	8	3	0	0	0
計	250	50,067	5,220	4,679	9,899	40,013	140	15	0	0	0

月別検査頭数の推移

[牛]



[豚]



(6) 産地(都道府県)別検査頭数

養老町立食肉事業センター

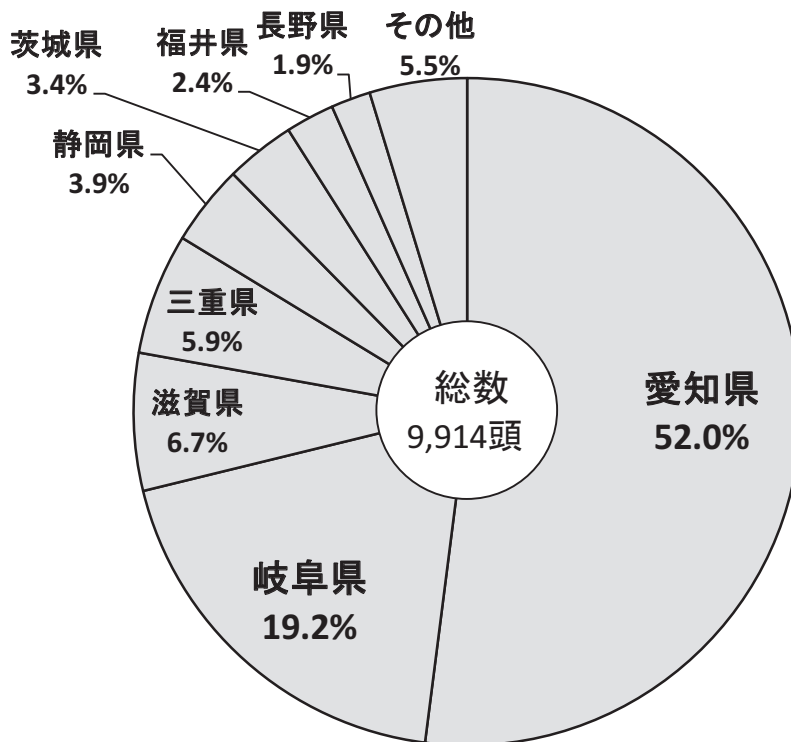
牛(とくを含む)

都道府県名	検査頭数(頭)	割合(%)
岐 阜 県	1,900	19.2%
愛 知 県	5,157	52.0%
三 重 県	583	5.9%
静 岡 県	387	3.9%
長 野 県	190	1.9%
滋 賀 県	660	6.7%
石 川 県	7	0.1%
富 山 県	13	0.1%
福 井 県	234	2.4%
京 都 府	80	0.8%
大 阪 府	18	0.2%
兵 庫 県	117	1.2%
奈 良 県	65	0.7%
和 歌 山 県	54	0.5%
北 海 道	10	0.1%
神 奈 川 県	2	0.0%
栃 木 県	68	0.7%
茨 城 県	335	3.4%
福 島 県	24	0.2%
岡 山 県	6	0.1%
高 知 県	4	0.0%
総 数	9,914	100%

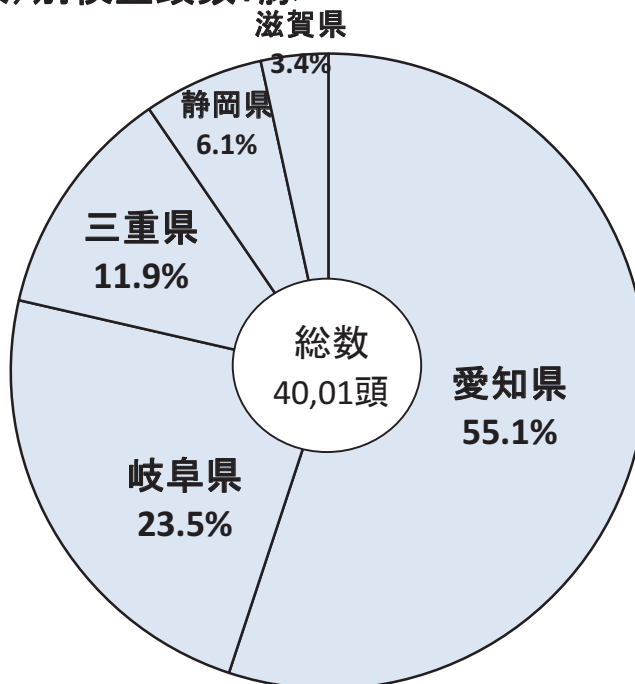
豚

都道府県名	検査頭数(頭)	割合(%)
岐 阜 県	9,411	23.5%
愛 知 県	22,035	55.1%
三 重 県	4,746	11.9%
滋 賀 県	1,369	3.4%
静 岡 県	2,452	6.1%
総 数	40,013	100%

産地(都道府県別)検査頭数:牛(とくを含む)



産地(都道府県)別検査頭数:豚



4 検査結果及び措置状況

Results of Livestock Inspection and Breakdown of Measures

(1) 検査結果に基づく処分状況 (20年間統計)

牛 (とくを除く)

区分 年度	検査頭数	処分実頭数	処分率 (%)	処分区分		
				禁止	全廃棄	一部廃棄
3	29,655	8,316	28.0	0	105	8,211
4	30,022	9,421	31.4	0	73	9,348
5	28,038	8,299	29.6	0	72	8,227
6	25,868	7,158	27.7	0	63	7,095
7	24,906	8,284	33.3	0	60	8,224
8	24,732	9,482	38.3	0	66	9,416
9	24,249	9,475	39.1	0	102	9,373
10	25,482	9,433	37.0	0	92	9,341
11	24,922	9,206	36.9	0	156	9,050
12	22,828	7,206	31.6	0	157	7,049
13	18,143	5,347	29.5	0	98	5,249
14	14,226	2,926	20.6	0	37	2,889
15	14,541	3,621	24.9	0	56	3,565
16	17,709	5,059	28.6	0	135	4,924
17	18,959	5,405	28.5	0	151	5,254
18	18,701	5,122	27.4	0	131	4,991
19	15,816	4,281	27.1	0	181	4,100
20	12,503	3,442	27.5	0	152	3,290
21	10,933	2,811	25.7	0	135	2,676
22	9,899	3,184	32.2	0	213	2,967

豚

年度	区分	検査頭数	処分実頭数	処分率 (%)	処分区分		
					禁止	全廃棄	一部廃棄
3		184,021	115,622	62.8	0	93	115,529
4		183,609	115,865	63.1	0	123	115,742
5		191,466	101,219	52.9	1	63	101,155
6		164,982	87,694	53.2	0	50	87,644
7		144,403	71,984	49.8	0	32	71,952
8		126,765	64,809	51.1	0	50	64,759
9		119,823	65,502	54.7	0	76	65,426
10		112,614	60,099	53.4	0	91	60,008
11		106,907	67,183	62.8	0	66	67,117
12		103,562	64,239	62.0	0	47	64,192
13		94,814	70,575	74.4	0	80	70,495
14		93,639	82,177	87.8	0	99	82,078
15		96,928	91,740	94.6	0	123	91,617
16		85,100	73,546	86.4	0	124	73,422
17		76,667	44,149	57.6	0	128	44,021
18		66,225	27,036	40.8	0	78	26,958
19		43,302	17,179	39.7	0	24	17,155
20		39,073	14,100	36.1	0	32	14,068
21		37,427	15,894	42.5	0	40	15,854
22		40,013	18,458	46.1	0	31	18,427

馬

年度	区分	検査頭数	処分実頭数	処分率 (%)	処分区分		
					禁止	全廃棄	一部廃棄
3		254	25	9.8	0	2	23
4		270	27	10.0	0	0	27
5		321	31	9.7	0	0	31
6		580	51	8.8	0	4	47
7		982	68	6.9	0	0	68
8		971	92	9.5	0	2	90
9		959	72	7.5	0	0	72
10		774	50	6.5	0	3	47
11		523	77	14.7	0	2	75
12		847	75	8.9	0	0	75
13		1,110	141	12.7	0	0	141
14		1,361	136	10.0	0	1	135
15		1,464	244	16.7	0	0	244
16		1,318	271	20.6	0	2	269
17		1,190	218	18.3	0	3	215
18		936	155	16.6	0	5	150
19		465	45	9.7	0	2	43
20		247	14	5.7	0	1	13
21		171	7	4.1	0	0	7
22		140	6	4.3	0	0	6

とく

区分 年度	検査頭数	処分実頭数	処分率 (%)	処分区分		
				禁止	全廃棄	一部廃棄
3	72	22	30.6	0	3	19
4	101	45	44.6	0	0	45
5	63	31	49.2	0	0	31
6	46	16	34.8	0	2	14
7	48	20	41.7	0	0	20
8	31	12	38.7	0	1	11
9	37	20	54.1	0	2	18
10	31	13	41.9	0	1	12
11	26	7	26.9	0	1	6
12	30	15	50.0	0	1	14
13	38	19	50.0	0	1	18
14	8	5	62.5	0	1	4
15	10	6	60.0	0	1	5
16	63	27	42.9	0	1	26
17	44	26	59.1	0	0	26
18	31	14	45.2	0	2	12
19	44	13	29.5	0	0	13
20	57	15	26.3	0	1	14
21	34	11	32.4	0	2	9
22	15	8	53.3	0	5	3

子馬

区分 年度	検査頭数	処分実頭数	処分率 (%)	処分区分		
				禁止	全廃棄	一部廃棄
3	2	0	0.0	0	0	0
4	0	0	0.0	0	0	0
5	7	0	0.0	0	0	0
6	1	0	0.0	0	0	0
7	1	0	0.0	0	0	0
8	3	0	0.0	0	0	0
9	0	0	0.0	0	0	0
10	1	0	0.0	0	0	0
11	1	0	0.0	0	0	0
12	0	0	0.0	0	0	0
13	0	0	0.0	0	0	0
14	0	0	0.0	0	0	0
15	0	0	0.0	0	0	0
16	2	0	0.0	0	0	0
17	1	0	0.0	0	0	0
18	0	0	0.0	0	0	0
19	0	0	0.0	0	0	0
20	0	0	0.0	0	0	0
21	0	0	0.0	0	0	0
22	0	0	0.0	0	0	0

めん羊・山羊

区分 年度	検査頭数	処分実頭数	処分率 (%)	処分区分		
				禁止	全廃棄	一部廃棄
3	3	0	0.0	0	0	0
4	1	0	0.0	0	0	0
5	0	0	0.0	0	0	0
6	5	0	0.0	0	0	0
7	1	0	0.0	0	0	0
8	4	0	0.0	0	0	0
9	1	0	0.0	0	0	0
10	3	1	33.3	0	0	1
11	7	0	0.0	0	0	0
12	7	1	14.3	0	0	1
13	10	0	0.0	0	0	0
14	0	0	0.0	0	0	0
15	0	0	0.0	0	0	0
16	0	0	0.0	0	0	0
17	0	0	0.0	0	0	0
18	0	0	0.0	0	0	0
19	0	0	0.0	0	0	0
20	0	0	0.0	0	0	0
21	0	0	0.0	0	0	0
22	0	0	0.0	0	0	0

(2) 畜種別・原因別措置状況 (20年間統計)

牛 (とくを除く)

区分 年度	と畜 検査 頭 数	処 分 実 頭 数	疾				病		
			細菌病				原虫病	寄生虫	
			結 核 病	破 傷 風	放 線 菌 病	そ の 他	そ の 他	の う 虫 症	ジ ス ト マ 病
3	29,655	8,316	0	0	0	0	0	0	1,220
4	30,022	9,421	0	0	3	0	0	0	774
5	28,038	8,299	0	0	6	0	0	0	741
6	25,868	7,158	0	0	0	0	0	0	577
7	24,906	8,284	0	0	4	0	0	0	474
8	24,732	9,482	0	0	9	0	0	0	290
9	24,249	9,475	0	0	11	0	0	0	274
10	25,482	9,433	0	0	21	0	0	0	371
11	24,922	9,206	0	0	16	0	0	0	242
12	22,828	7,206	0	0	21	0	0	0	248
13	18,143	5,347	0	0	13	0	0	0	140
14	14,226	2,926	0	0	2	0	0	0	51
15	14,541	3,621	0	0	2	0	0	0	37
16	17,709	5,059	0	0	8	0	0	0	38
17	18,959	5,405	0	0	14	0	0	0	23
18	18,701	5,122	0	0	11	0	0	0	38
19	15,816	4,281	0	0	8	0	0	0	21
20	12,503	3,442	0	0	14	0	0	0	35
21	10,933	2,811	0	0	7	0	0	0	31
22	9,899	3,184	0	0	9	0	0	0	17

別 頭 数									
病	の 疾 病								
そ の 他	膿 毒 症	敗 血 症	尿 毒 症	黄 疸	水 腫	腫 瘍	よ 炎 症 又 は 汚 染 に よ る 炎 症 産 物	変 性 又 は 萎 縮	そ の 他
0	4	58	2	12	393	106	6,756	1,631	733
0	2	40	6	4	474	149	8,323	1,412	1,002
0	0	31	2	18	773	22	6,801	1,515	1,354
0	5	23	5	15	683	4	5,583	1,382	1,111
0	1	39	1	18	762	5	5,761	1,068	1,896
4	5	41	1	23	891	0	6,470	1,433	2,312
0	4	71	4	8	859	5	6,345	1,343	2,439
0	2	53	7	6	888	1	6,319	1,143	2,604
0	7	73	5	10	1,239	5	6,757	1,381	3,395
0	12	82	10	6	1,972	10	6,078	1,466	3,161
0	3	41	6	17	623	13	4,384	720	1,968
0	2	4	7	7	231	3	2,569	204	946
0	2	10	14	7	471	1	3,152	372	1,259
0	6	48	21	10	708	4	4,482	788	1,784
0	8	76	11	17	567	5	4,958	887	1,929
1	5	55	9	19	387	5	4,312	855	1,872
0	7	65	0	4	420	34	3,442	845	1,862
0	5	62	3	4	305	3	3,119	541	1,519
0	0	49	1	14	231	1	2,505	450	1,241
0	20	51	3	7	297	3	2,968	450	1,299

豚

区分 年度	と 畜 検 査 頭 数	処 分 実 頭 数	疾 病						
			細 菌 病					原虫病	寄
			豚 丹 毒	結 核 病	破 傷 風	放 線 菌 病	そ の 他	そ の 他	の う 虫 症
3	184,021	115,622	0	0	0	0	0	0	0
4	183,609	115,865	0	0	0	0	0	0	0
5	191,466	101,219	0	0	0	0	0	0	0
6	164,982	87,694	0	0	0	0	0	0	0
7	144,403	71,984	0	0	0	0	0	0	0
8	126,765	64,809	0	0	0	0	0	0	0
9	119,823	65,502	0	0	0	0	0	0	0
10	112,614	60,099	0	0	0	0	0	0	0
11	106,907	67,183	0	0	0	0	0	0	0
12	103,562	64,239	0	0	0	0	0	0	0
13	94,814	70,575	0	0	0	0	0	0	0
14	93,639	82,177	0	0	0	0	0	0	0
15	96,928	91,740	0	0	0	0	0	0	0
16	85,100	73,546	0	0	0	0	0	0	0
17	76,667	44,149	0	0	0	0	0	0	0
18	66,225	27,036	0	0	0	0	0	0	0
19	43,302	17,179	0	0	0	0	0	0	0
20	39,073	14,100	1	0	0	0	0	0	0
21	37,427	15,894	0	0	0	0	0	0	0
22	40,013	18,458	0	0	0	0	0	0	0

別 頭 数										
生 虫 病		そ の 他 の 疾 病								
ジ	そ	膿	敗	尿	黄	水	腫	よ	変	そ
ス	の	毒	血	毒	疸	腫	瘍	炎	性	の
ト	他	症	症	症				症	又	他
マ								又	は	
病								汚	萎	
								染	縮	
								に		
1	0	32	47	1	8	1,699	12	115,498	438	1,430
0	0	33	74	3	8	1,502	6	115,742	623	2,772
0	0	26	33	1	3	826	2	101,159	1,387	3,677
0	0	11	34	1	2	409	1	87,644	1,377	3,491
0	0	6	16	0	8	324	4	71,940	1,233	4,110
0	0	16	26	1	7	470	2	64,747	1,481	3,576
0	0	43	30	0	3	533	1	65,414	947	4,446
0	2	43	44	0	2	308	0	59,996	314	2,774
0	0	39	21	1	3	508	2	65,385	460	2,784
0	0	22	24	0	1	352	2	62,650	416	1,809
0	0	31	32	0	4	727	1	69,052	360	1,328
0	0	37	43	1	6	514	2	80,135	872	1,872
0	0	60	46	0	1	924	3	88,767	1,413	2,439
0	0	63	55	0	0	545	2	70,377	1,438	3,105
0	0	80	38	1	3	471	0	58,097	460	4,038
0	0	50	23	1	0	403	0	41,162	474	2,894
0	1	5	15	0	1	422	1	27,096	364	705
0	0	13	13	0	2	624	2	22,149	359	314
0	0	7	28	0	4	365	0	25,352	450	263
0	0	15	11	0	6	144	0	27,570	2,473	529

馬

区分 年度	と 畜 検 査 頭 数	処 分 実 頭 数	疾 病						
			細 菌 病				原虫病	寄 生 虫	
			結 核 病	破 傷 風	放 線 菌 病	そ の 他	そ の 他	の う 虫 症	ジ ス ト マ 病
3	254	25	0	0	0	0	0	0	0
4	270	27	0	0	0	0	0	0	0
5	321	31	0	0	0	0	0	0	0
6	580	51	0	0	0	0	0	0	0
7	982	68	0	0	0	0	0	0	0
8	971	92	0	0	0	0	0	0	0
9	959	72	0	0	0	0	0	0	0
10	774	50	0	0	0	0	0	0	0
11	523	77	0	0	0	0	0	0	0
12	847	75	0	0	0	0	0	0	0
13	1,110	141	0	0	0	0	0	0	0
14	1,361	136	0	0	0	0	0	0	0
15	1,464	244	0	0	0	0	0	0	0
16	1,320	271	0	0	0	0	0	0	0
17	1,191	218	0	0	0	0	0	0	0
18	936	155	0	0	0	0	0	0	0
19	465	45	0	0	0	0	0	0	0
20	247	14	0	0	0	0	0	0	0
21	171	7	0	0	0	0	0	0	0
22	140	6	0	0	0	0	0	0	0

別 頭 数									
病	の 疾 病								
そ の 他	膿 毒 症	敗 血 症	尿 毒 症	黄 疸	水 腫	腫 瘍	よ る 汚 染 に 炎 症 又 は 炎 症 産 物 に	変 性 又 は 萎 縮	そ の 他
6	0	0	0	0	4	0	14	1	16
4	0	0	0	0	0	0	14	0	14
2	0	0	0	0	1	0	6	0	25
4	0	0	0	0	4	2	15	0	25
2	0	0	0	0	8	0	15	2	55
0	0	0	0	0	13	1	20	4	72
0	0	0	0	0	5	1	17	1	63
0	0	0	0	1	3	3	11	5	38
0	0	0	0	0	3	2	22	4	54
0	0	0	0	0	3	0	16	2	68
0	0	0	0	0	4	0	26	4	130
0	0	0	0	1	9	0	45	12	97
0	0	0	0	0	17	0	49	7	214
0	0	0	0	0	14	2	55	1	242
0	0	0	0	2	14	3	53	2	173
1	0	1	0	0	0	3	57	2	119
0	0	0	0	0	1	1	14	0	31
0	0	0	0	0	1	0	4	0	11
0	0	0	0	0	0	0	3	1	5
0	0	0	0	0	0	0	4	1	3

とく

区分 年度	と畜 検査 頭 数	処 分 実 頭 数	疾 病						
			細 菌 病				原虫病	寄 生 虫	
			結 核 病	破 傷 風	放 線 菌 病	そ の 他	そ の 他	の う 虫 症	ジ ス ト マ 病
3	72	22	0	0	0	0	0	0	0
4	101	45	0	0	0	0	0	0	1
5	63	31	0	0	0	0	0	0	1
6	46	16	0	0	0	0	0	0	0
7	48	20	0	0	0	0	0	0	0
8	31	12	0	0	0	0	0	0	0
9	37	20	0	0	0	0	0	0	0
10	31	13	0	0	0	0	0	0	0
11	26	7	0	0	0	0	0	0	0
12	30	15	0	0	0	0	0	0	0
13	38	19	0	0	0	0	0	0	0
14	8	5	0	0	0	0	0	0	0
15	10	6	0	0	0	0	0	0	0
16	63	27	0	0	0	0	0	0	0
17	44	26	0	0	0	0	0	0	0
18	31	14	0	0	0	0	0	0	0
19	44	13	0	0	0	0	0	0	0
20	57	15	0	0	0	0	0	0	0
21	34	11	0	0	0	0	0	0	0
22	22	15	8	0	0	0	0	0	0

別 頭 数									
病	の 疾 病								
そ の 他	膿 毒 症	敗 血 症	尿 毒 症	黄 疸	水 腫	腫 瘍	よ る 汚 染 に よ る 炎 症 又 は 炎 症 産 物 に よ る 汚 染	変 性 又 は 萎 縮	そ の 他
0	0	1	0	2	4	1	20	1	5
0	0	0	0	0	2	1	39	1	5
0	0	0	0	0	4	0	32	6	5
0	0	0	0	0	2	0	12	0	1
0	0	0	0	0	0	0	18	0	4
0	0	0	0	0	0	0	8	1	7
0	1	1	0	0	1	0	13	3	3
0	0	0	1	0	1	0	8	2	3
0	0	0	0	1	1	0	4	0	1
0	1	0	0	0	1	0	9	1	4
0	0	0	0	0	4	0	15	0	8
0	0	1	0	0	0	0	1	2	2
0	0	0	1	0	0	0	4	0	0
0	0	0	1	0	3	0	16	8	6
0	0	0	0	0	2	0	82	1	13
0	2	0	0	0	1	0	13	0	2
0	0	0	0	0	1	0	19	0	5
0	0	0	0	0	2	0	14	0	6
0	0	1	1	0	1	0	6	1	1
0	0	1	0	0	4	0	3	1	0

子馬

区分 年度	と畜 検査 頭 数	処 分 実 頭 数
4	0	0
5	7	0
6	1	0
7	1	0
8	3	0
9	0	0
10	1	0
11	1	0
12	0	0
13	0	0
14	0	0
15	0	0
16	2	0
17	1	0
18	0	0
19	0	0
20	0	0
21	0	0
22	0	0

めん羊・山羊

区分 年度	と畜 検査 頭 数	処 分 実 頭 数	疾 病 別 頭 数				
			寄 生 虫 病		そ の 他 の 疾 病		
			の う 虫 症	ジ ス ト マ 病	よ 炎 症 又 は 汚 染 に 汚 染	変 性 又 は 萎 縮	そ の 他
3	3	0	0	0	0	0	0
4	1	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0	0
7	1	0	0	0	0	0	0
8	4	0	0	0	0	0	0
9	1	0	0	0	0	0	0
10	3	1	0	0	0	0	0
11	7	0	0	0	0	0	0
12	7	1	0	0	0	0	1
13	10	0	0	0	0	0	0
14	0	0	0	0	0	0	0
15	0	0	0	0	0	0	0
16	0	0	0	0	0	0	0
17	0	0	0	0	0	0	0
18	0	0	0	0	0	0	0
19	0	0	0	0	0	0	0
20	0	0	0	0	0	0	0
21	0	0	0	0	0	0	0
22	0	0	0	0	0	0	0

(3) 畜種別病変状況

(平成22年度)

病類	畜種	計	種 別				
			牛	豚	馬	とく	その他
循 環 器	心筋炎	2	2				
	化膿性心筋炎	1	1				
	心冠部脂肪水腫	29	24	5			
	心リポフスチン沈着	51	51				
	心外膜炎	2,285	60	2,225			
	心内膜炎	19		19			
	疣状心内膜炎	0					
	心筋出血	0					
	脾炎	0					
	化膿性脾炎	0					
	脾うっ血	0					
	心筋脂肪変性	0					
	その他	0					
呼 吸 器	吸入肺	0					
	肺炎	10,235	87	10,146		2	
	化膿性肺炎	88	15	70	3		
	肺虫症	0					
	肺水腫	0					
	肺気腫	0					
	胸膜炎	2,620	8	2,612			
	化膿性胸膜炎	0					
	横隔膜炎	0					
	化膿性横隔膜炎	7	7				
その他	0						
消 化 器	胃炎	2		2			
	化膿性胃炎	0					
	第四胃変位	17	17				
	小腸炎	51	15	36			
	ヘルニア(臍)	16		16			
	腸気泡症	6		6			
	大腸炎	16	6	10			
	大腸水腫	117	2	115			
	腸充うっ血	301	7	294			
	腸間膜水腫	4	3	1			
	肝炎	2,686	1,249	1,435	1	1	
化膿性肝炎	493	382	111				

病類	畜種	計	種 別				
			牛	豚	馬	とく	その他
消化器	間質性肝炎	8,234		8,234			
	肝硬変	47	2	44	1		
	肝包膜炎	1,236	133	1,103			
	肝富脈斑	67	45	22			
	肝うっ出血	359	269	90			
	肝脂肪変性	2,709	282	2,426		1	
	肝砂粒症	3			3		
	肝リポフスチン沈着	75	73	2			
	鋸屑肝	25	25				
	肝壊死	1		1			
	胆管炎	40	40				
	肝蛭症	17	17				
	脾水腫	6		6			
	腹膜炎	658	72	586			
	直腸脱	0					
	臓器リンパ抗酸菌症	839		839			
	腸間膜脂肪壊死	29	29				
	その他	4	4				
泌尿器	腎炎	8	3	5			
	化膿性腎炎	9	2	7			
	腎うっ出血	2	2				
	腎結石	2	2				
	尿石症	8	8				
	腎周囲脂肪壊死	9	8	1			
	腎のう胞	15	2	13			
	腎水腫	1	1				
	膀胱炎	19	17	2			
	膀胱結石	9	9				
	尿道結石	0					
	その他	1	1				
生殖器	乳房炎	68	68				
	壊疽性乳房炎	3	3				
	化膿性乳房炎	21	21				
	乳房血腫	0					
	子宮内膜炎	0					
	化膿性子宮炎	3	2	1			
	子宮・膣脱	0					
	子宮蓄膿症	0					

畜種 病類		計	種 別					
			牛	豚	馬	とく	その他	
生殖器	子宮裂傷	0						
	その他	8	8					
運動器	筋炎	385	384	1				
	化膿性筋炎	106	45	61				
	筋肉出血	424	381	43				
	筋肉水腫	169	165	4				
	筋肉血腫	10	10					
	筋肉変性	36	36					
	筋断裂	161	158	3				
	挫傷	71	71					
	化膿性骨炎	0						
	骨折	21	12	9				
	関節炎	279	255	24				
	化膿性関節炎	12	12					
	脱臼	60	60					
	腱断裂	3	3					
	皮下出血	119	119					
	その他	皮下水腫	44	44				
フレグモーネ		3	3					
放線菌症		9	9					
その他		5	4	1				
その他		腫瘍（限局）	0					
		産前・後起立不能	42	42				
		軽度の黄疸	9	8	1			
		軽度の水腫	8	8				
		難産	1	1				
		産褥麻痺	0					
		急性鼓脹症	0					
		その他	2		2			
全身性病		白血病	79	79				
		膿毒症	35	20	15			
		敗血症	63	51	11		1	
		高度の黄疸	12	7	5			
	高度の水腫	52	48	4				
	全身の炎症	1	1					
	多発性腫瘍	2	2					
	尿毒症	3	3					
	高度の筋肉変性	6	6					
	その他	0						

5 切迫・病畜検査状況

Number of Pressured and Diseased Live stock Inspection

(1) 切迫原因及び出荷地別検査頭数 (20年間統計)

① 切迫原因別検査頭数

年 度	原 因	計	急	産	難	い	不	る
			性	褥	産	う	慮	る
			鼓	麻		こ	の	不
			脹	痺		と	災	慮
			症			の	害	の
						災	で	災
						害	き	害
						で	で	に
						な	救	傷
						態		よ
3	牛	32	24	4	4		0	0
	その他	1	0	0	0		0	1
4	牛	20	16	1	2		0	1
	その他	0	0	0	0		0	0
5	牛	6	5	0	1		0	0
	その他	0	0	0	0		0	0
6	牛	0	0	0	0		0	0
	その他	0	0	0	0		0	0
7	牛	2	1	1	0		0	0
	その他	0	0	0	0		0	0
8	牛	1	0	1	0		0	0
	その他	0	0	0	0		0	0
9	牛	0	0	0	0		0	0
	その他	0	0	0	0		0	0
10	牛	1	1	0	0		0	0
	その他	0	0	0	0		0	0
11	牛	0	0	0	0		0	0
	その他	0	0	0	0		0	0
12	牛	0	0	0	0		0	0
	その他	0	0	0	0		0	0
13	牛	0	0	0	0		0	0
	その他	0	0	0	0		0	0
14	牛	1	1	0	0		0	0
	その他	0	0	0	0		0	0
15	牛	0	0	0	0		0	0
	その他	0	0	0	0		0	0
16	牛	0	0	0	0		0	0
	その他	0	0	0	0		0	0
17	牛	0	0	0	0		0	0
	その他	0	0	0	0		0	0
18	牛	0	0	0	0		0	0
	その他	1	0	0	0		0	1
19	牛	0	0	0	0		0	0
	その他	0	0	0	0		0	0
20	牛	0	0	0	0		0	0
	その他	0	0	0	0		0	0
21	牛	0	0	0	0		0	0
	その他	0	0	0	0		0	0
22	牛	0	0	0	0		0	0
	その他	0	0	0	0		0	0

② 出荷地別検査頭数

出荷地 年 度		計	出 荷 都 道 府 県 名						
			岐 阜	愛 知	三 重	静 岡	滋 賀	福 井	そ の 他
3	牛	32	12	4	7	0	6	1	2
	その他	1	0	1	0	0	0	0	0
4	牛	20	8	2	6	0	3	1	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
5	牛	6	1	2	3	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
6	牛	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
7	牛	2	2	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
8	牛	1	1	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
9	牛	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
10	牛	1	1	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
11	牛	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
12	牛	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
13	牛	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
14	牛	1	1	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
15	牛	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
16	牛	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
17	牛	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
18	牛	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	1	1	0	0	0	0	0	0
19	牛	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
20	牛	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
21	牛	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
22	牛	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0

(2) 病畜の出荷地別検査頭数 (20年間統計)

出荷地		計	出 荷 都 道 府 県 名						
			岐 阜	愛 知	三 重	静 岡	滋 賀	福 井	そ の 他
年 度									
3	牛	2,266	461	459	328	5	300	67	646
	その他	76	30	19	7	0	0	0	20
4	牛	2,118	406	417	316	2	275	55	647
	その他	109	29	11	6	0	8	1	54
5	牛	1,507	342	365	267	1	271	45	216
	その他	58	22	17	5	0	7	0	7
6	牛	1,555	421	345	258	1	322	57	151
	その他	38	21	4	5	0	3	0	5
7	牛	1,371	468	324	230	2	248	38	61
	その他	56	21	10	7	0	8	2	8
8	牛	1,466	383	343	278	0	273	40	149
	その他	37	11	8	4	0	6	1	7
9	牛	1,363	342	302	274	0	280	35	130
	その他	42	8	7	6	0	8	0	13
10	牛	1,525	383	342	288	0	288	52	172
	その他	26	8	5	1	0	4	0	8
11	牛	1,513	406	257	307	0	260	64	219
	その他	22	9	3	1	0	4	1	4
12	牛	1,584	424	329	300	0	247	50	234
	その他	17	7	4	1	0	1	0	4
13	牛	894	199	161	188	1	144	34	167
	その他	17	4	6	4	0	1	0	2
14	牛	72	14	19	8	1	20	1	9
	その他	3	1	2	0	0	0	0	0
15	牛	232	53	84	29	6	47	2	11
	その他	4	3	1	0	0	0	0	0
16	牛	896	192	487	77	51	68	9	12
	その他	4	0	3	0	0	0	0	1
17	牛	928	231	480	73	58	72	2	12
	その他	11	3	1	0	2	5	0	0
18	牛	830	204	425	70	60	52	11	8
	その他	9	5	3	0	0	1	0	0
19	牛	871	200	472	57	58	56	9	19
	その他	8	3	1	0	0	3	1	0
20	牛	807	150	479	51	52	41	7	27
	その他	6	2	4	0	0	0	0	0
21	牛	686	175	365	28	15	58	14	31
	その他	2	0	2	0	0	0	0	0
22	牛	569	91	373	6	6	49	5	39
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0

第Ⅱ章 食鳥検査

Chapter II Poultry Inspection

1 県内食鳥処理場配置図

Location of Poultry Slaughter Plants in Gifu Prefecture



施設名	所在地	検査所からの距離	当所所管業務	
			現場検査	精密検査
岐阜アグリフーズ㈱	山県市高富 227-4	29km	○	○
タッキーフーズ㈱南濃工場	海津市南濃町志津字菖蒲原 255	17	○	○
農事組合法人東濃ミートセンター	中津川市かやの木町 4-30 号	115		○
(株)ギフシヨク	岐阜市安食 491	13		

2 食鳥処理場の検査概要

Summary of Poultry Inspection in Gifu Prefecture

(1) 各食鳥処理場の現況と検査機関

処 理 場 名	食鳥の種類	処理方法	処 理 能 力	検 査 機 関
岐阜アグリフーズ(株)	ブロイラー	中 抜 き	10,000 羽/日 300万 羽/年	岐阜県食肉衛生検査所
タッキーフーズ(株) 南 濃 工 場	ブロイラー	外 剥 き	3,000 羽/日 84万 羽/年	
農 事 組 合 法 人 東濃ミートセンター	ブロイラー	外 剥 き	7,000 羽/日 200万 羽/年	岐阜県恵那保健所
(株)ギフシヨク	成 鶏	中 抜 き	4,500 羽/日 110万 羽/年	岐阜市保健所 食肉衛生検査所

(2) 食鳥検査手数料 1羽につき 3円

適用年月日 平成5年4月1日

(3) 所管食鳥処理場の検査対応状況

処 理 場 名	検 査 時 間 帯	閉 場 日
岐阜アグリフーズ(株)	6:30~15:15	日曜日、水曜日
タッキーフーズ(株)南濃工場	6:30~15:15	日曜日、水曜日

(4) 検査実施日数(平成22年度)

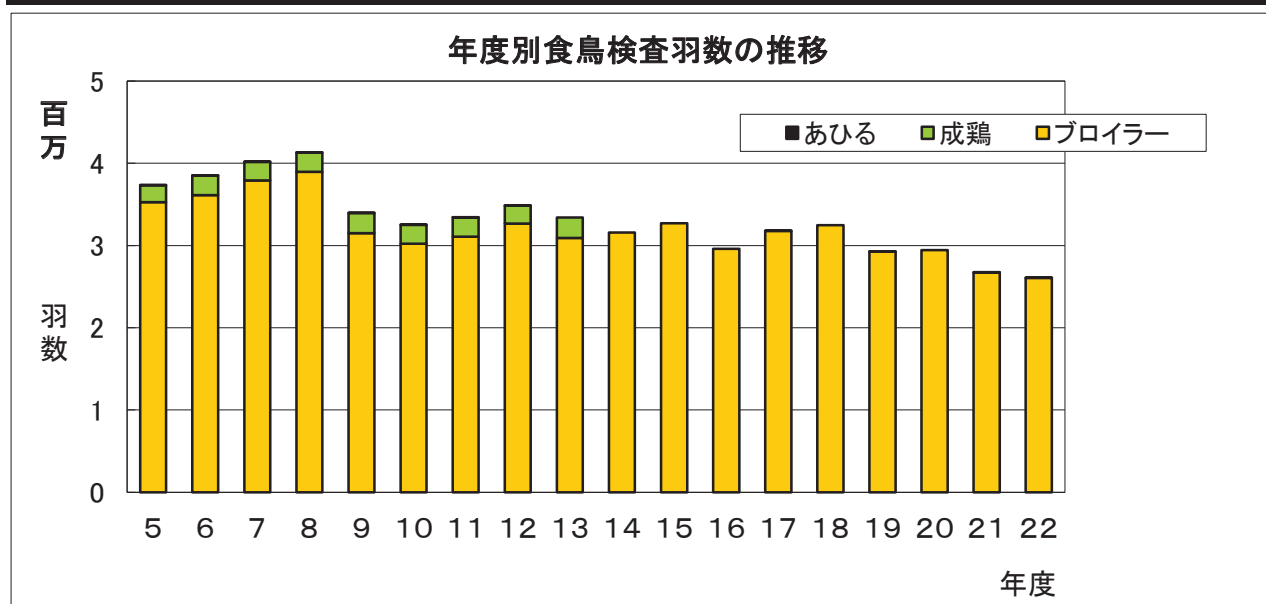
処 理 場 名	平 日	土曜日	日曜日	祝祭日等	計
岐阜アグリフーズ(株)	206	50	1	13 (12/29~30含む)	270日
タッキーフーズ(株)南濃工場	195	50	1	14	260日

3 検査羽数

Number of Poultry handled at the Slaughter Plants

(1) 年度別食鳥検査羽数（食鳥検査制度創設時からの総計）

区分 年度	計	種 別		
		ブロイラー	成 鶏	あ ひ る
5	3,734,301	3,526,406	205,556	2,339
6	3,852,195	3,611,572	237,754	2,869
7	4,017,454	3,792,122	225,059	273
8	4,129,428	3,896,768	232,028	632
9	3,395,496	3,150,173	245,124	199
10	3,250,620	3,022,665	227,737	218
11	3,341,482	3,106,695	234,603	184
12	3,486,533	3,265,415	220,952	166
13	3,342,974	3,090,852	252,122	0
14	3,158,282	3,158,282	0	0
15	3,271,653	3,271,653	0	0
16	2,958,388	2,958,388	0	0
17	3,179,166	3,178,678	488	0
18	3,246,270	3,246,270	0	0
19	2,926,545	2,926,011	534	0
20	2,943,512	2,943,512	0	0
21	2,673,101	2,672,478	623	0
22	2,608,439	2,607,816	623	0



(2) 処理場別検査羽数（食鳥検査制度創設からの統計）

岐阜アグリフーズ(株)

区分 年度	計	対前年比(%)	ブロイラー	成 鶏	あ ひ る
5	2,656,716	-	2,654,377	0	2,339
6	2,792,829	105.1	2,789,960	0	2,869
7	2,977,901	106.6	2,977,628	0	273
8	3,081,792	103.5	3,081,160	0	632
9	2,320,636	75.3	2,320,437	0	199
10	2,208,927	95.2	2,208,709	0	218
11	2,287,075	103.5	2,286,891	0	184
12	2,480,150	108.4	2,479,984	0	166
13	2,303,583	92.9	2,303,583	0	0
14	2,485,683	107.9	2,485,683	0	0
15	2,636,177	106.1	2,636,177	0	0
16	2,418,710	91.8	2,418,710	0	0
17	2,641,771	109.2	2,641,771	0	0
18	2,674,183	101.2	2,674,183	0	0
19	2,453,774	91.8	2,453,774	0	0
20	2,466,839	100.5	2,466,839	0	0
21	2,400,211	97.3	2,400,211	0	0
22	2,250,151	93.7	2,250,151	0	0

タッキーフーズ(株)南濃工場

区分 年度	計	対前年比(%)	ブロイラー	成 鶏	あ ひ る
5	872,029	-	872,029	0	0
6	820,087	94.0	820,087	0	0
7	814,494	99.3	814,494	0	0
8	815,608	100.1	815,608	0	0
9	829,736	101.7	829,736	0	0
10	813,956	98.1	813,956	0	0
11	819,804	100.7	819,804	0	0
12	785,431	95.8	785,431	0	0
13	787,263	100.2	787,263	0	0
14	672,599	85.4	672,599	0	0
15	635,476	94.5	635,476	0	0
16	539,678	84.9	539,678	0	0
17	537,395	99.6	536,907	488	0
18	572,087	106.5	572,087	0	0
19	472,771	82.6	472,237	534	0
20	476,673	100.8	476,673	0	0
21	272,890	57.2	272,267	623	0
22	358,288	131.3	357,665	623	0

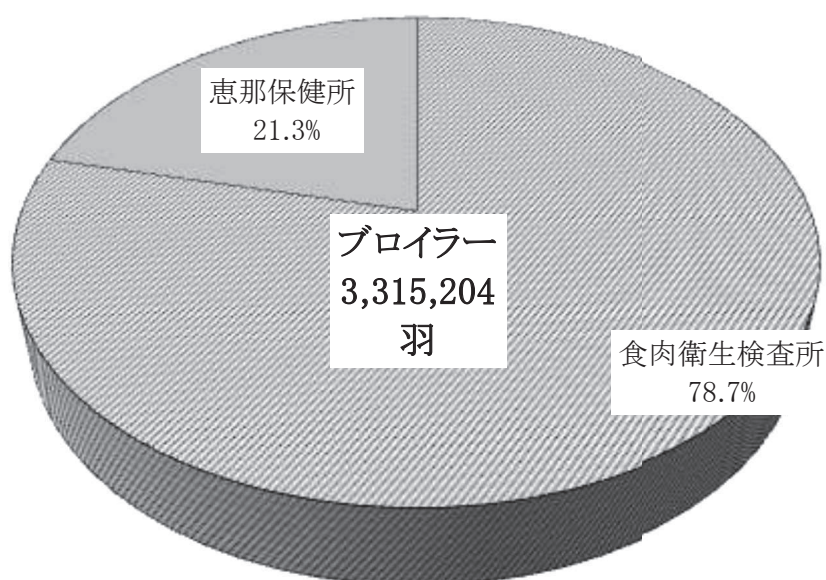
(3) 県内処理場別検査羽数

(平成22年度)

処 理 場 名	計	種 別		
		ブロイラー	成 鶏	あひる
岐 阜 ア グ リ フ ー ズ (株)	2,250,151	2,250,151	0	0
タ ッ キ ー フ ー ズ (株) 南 濃 工 場	358,288	357,665	623	0
小 計	2,608,439	2,607,816	623	0
農 事 組 合 法 人 東 濃 ミ ー ト セ ン タ ー	706,765	706,765	0	0
計	3,315,204	3,314,581	623	0

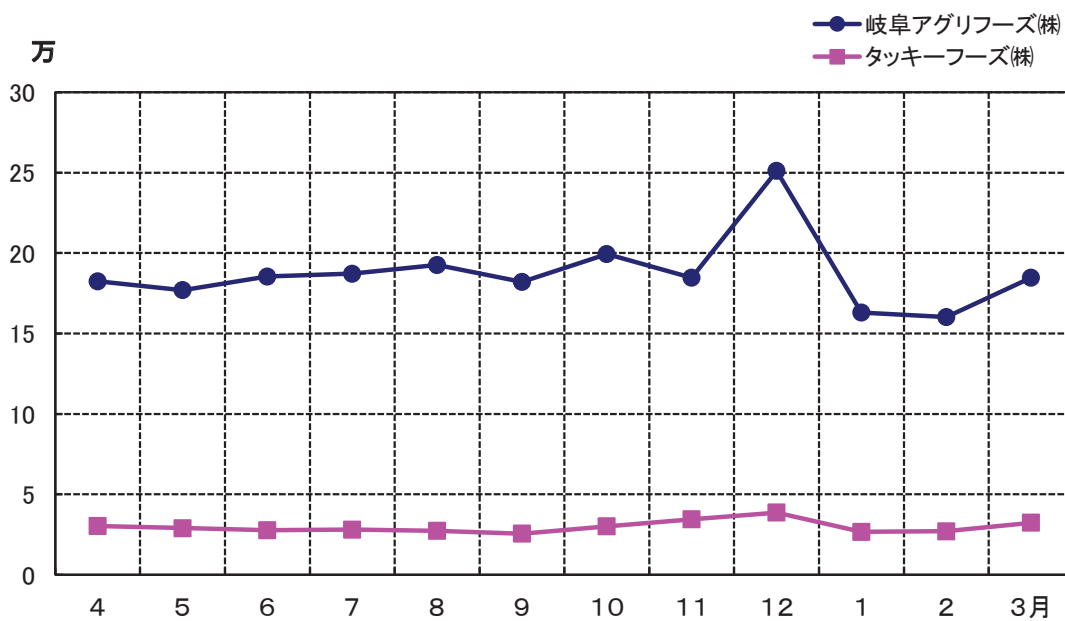
(4) 岐阜県食肉衛生検査所食鳥検査羽数の割合

(平成22年度)



(5) 月別処理場別検査羽数

処理場 月	岐阜アグリフーズ(株)			タッキーフーズ(株)南濃工場			計		
	ブロイラー	成 鶏	検査日数	ブロイラー	成 鶏	検査日数	ブロイラー	成 鶏	検査日数
4 月	182,485	0	22	30,363	0	22	212,848	0	44
5 月	176,961	0	22	29,042	623	22	206,003	0	44
6 月	185,423	0	22	27,702	0	21	213,125	0	43
7 月	187,205	0	23	28,122	0	22	215,327	623	45
8 月	192,629	0	23	27,328	0	22	219,957	0	45
9 月	182,125	0	23	25,580	0	21	207,705	0	44
10 月	199,392	0	23	30146	0	22	229,538	0	45
11 月	184,692	0	23	34505	0	22	219,197	0	45
12 月	251,118	0	24	38,737	0	24	289,855	0	48
1 月	163,120	0	21	26,650	0	20	189,770	0	41
2 月	160,289	0	21	27,107	0	20	187,396	0	41
3 月	184,712	0	23	32,383	0	22	217,095	0	45
計	2,250,151	0	270	357,665	623	260	2,607,816	623	530



4 検査結果及び措置状況

Results of Poultry Inspection Breakdown of Measures

(1) 検査結果に基づく処分状況（食鳥検査制度創設からの統計）

全食鳥

区分 年度	検査羽数	処分羽数	処分率(%)	処 分 区 分		
				禁 止	全部廃棄	一部廃棄
5	3,734,301	81,367	2.2	—	34,651	46,716
6	3,852,195	62,092	1.6	—	31,141	30,951
7	4,017,454	75,546	1.9	32,790	15,508	27,248
8	4,129,428	132,405	3.2	50,108	24,852	57,445
9	3,395,496	141,991	4.2	56,641	42,011	43,339
10	3,250,620	139,049	4.3	61,211	25,680	52,158
11	3,341,482	154,568	4.6	59,705	26,135	68,728
12	3,486,533	143,847	4.1	52,945	23,890	67,012
13	3,342,974	163,042	4.9	60,869	19,023	83,150
14	3,158,282	135,688	4.3	42,449	19,510	73,729
15	3,271,653	162,760	5.0	76,724	22,949	63,087
16	2,958,388	126,507	4.3	83,940	11,893	30,674
17	3,179,166	156,446	4.9	76,524	25,870	54,052
18	3,246,270	145,341	4.5	58,759	15,331	71,251
19	2,926,545	116,635	4.0	40,200	14,083	62,352
20	2,943,512	132,902	4.5	51,461	21,362	60,079
21	2,673,101	140,014	5.2	44,322	19,505	76,187
22	2,608,439	162,494	6.2	47,531	33,989	80,974

ブロイラー

区分 年度	検査羽数	処分羽数	処分率(%)	処 分 区 分		
				禁 止	全部廃棄	一部廃棄
5	3,526,406	67,355	1.9	—	28,314	39,041
6	3,611,572	53,034	1.5	—	25,406	27,628
7	3,792,122	66,072	1.7	27,182	14,355	24,535
8	3,896,768	107,148	2.7	37,850	22,772	46,526
9	3,150,173	111,458	3.5	41,284	39,774	30,400
10	3,022,665	111,362	3.7	46,902	23,029	41,431
11	3,106,695	130,280	4.2	47,221	23,844	59,215
12	3,265,415	123,811	3.8	43,650	22,110	58,051
13	3,090,852	144,064	4.7	51,818	17,271	74,975
14	3,158,282	135,688	4.3	42,449	19,510	73,729
15	3,271,653	162,760	5.0	76,724	22,949	63,087
16	2,958,388	126,507	4.3	83,940	11,893	30,674
17	3,178,678	156,435	4.9	76,517	25,867	54,051
18	3,246,270	145,341	4.5	58,759	15,331	71,251
19	2,926,011	116,632	4.0	40,197	14,083	62,352
20	2,943,512	132,902	4.5	51,461	21,362	60,079
21	2,672,478	140,005	5.2	44,320	19,504	76,181
22	2,607,816	162,479	6.2	47,523	33,989	80,967

成鶏

区分 年度	検査羽数	処分羽数	処分率(%)	処 分 区 分		
				禁 止	全部廃棄	一部廃棄
5	205,556	14,008	6.8	—	6,336	7,672
6	237,754	8,979	3.8	—	5,694	3,285
7	225,059	9,472	4.2	5,608	1,152	2,712
8	232,028	25,219	10.9	12,258	2,047	10,914
9	245,124	30,532	12.5	15,357	2,237	12,938
10	227,737	27,687	12.2	14,309	2,651	10,727
11	234,603	24,287	10.4	12,484	2,290	9,513
12	220,952	20,010	9.1	9,275	1,774	8,961
13	252,122	18,978	7.5	9,051	1,752	8,175
14	0	0	0.0	0	0	0
15	0	0	0.0	0	0	0
16	0	0	0.0	0	0	0
17	488	11	2.3	7	3	1
18	0	0	0.0	0	0	0
19	534	3	0.6	3	0	0
20	0	0	0.0	0	0	0
21	623	9	1.4	2	1	6
22	623	15	2.4	8	0	7

あひる

区分 年度	検査羽数	処分羽数	処分率(%)	処 分 区 分		
				禁 止	全部廃棄	一部廃棄
5	2,339	4	0.2	—	1	3
6	2,869	79	2.8	—	41	38
7	273	2	0.7	0	1	1
8	632	38	6.0	0	33	5
9	199	1	0.5	0	0	1
10	218	0	0.0	0	0	0
11	184	1	0.5	0	1	0
12	166	26	15.7	20	6	0
13	0	0	0.0	0	0	0
14	0	0	0.0	0	0	0
15	0	0	0.0	0	0	0
16	0	0	0.0	0	0	0
17	0	0	0.0	0	0	0
18	0	0	0.0	0	0	0
19	0	0	0.0	0	0	0
20	0	0	0.0	0	0	0
21	0	0	0.0	0	0	0
22	0	0	0.0	0	0	0

(2) 種類別・原因別措置状況 (10年間統計)

ブロイラー

区分		年度									
		1 3	1 4	1 5	1 6	1 7	1 8	1 9	2 0	2 1	2 2
禁 止	腹 水 症	822	1,300	240	114	339	104	115	84	38	14
	削瘦・発育不良	40,585	36,924	73,263	80,747	71,554	53,183	36,278	48,057	41,079	42,191
	放 血 不 良	7,465	1,977	1,563	1,344	3,254	3,421	1,633	1,661	2,051	3,077
	湯 漬 過 度	53	7	22	103	52	352	311	48	4	14
	そ の 他	454	2,241	1,636	1,632	1,318	1,699	1,860	1,611	1,148	2,227
	計	49,379	42,449	76,724	83,940	76,517	58,759	40,197	51,461	44,320	47,523
全 部 廃 棄	マ レ ッ ク 病	427	212	181	155	6,467	602	881	1,896	4,101	4,117
	大 腸 菌 症	1,757	5,264	3,675	1,816	6,215	3,531	3,446	8,342	5,371	11,797
	サルモネラ症	87	122	28	15	9	17	3	33	1	0
	ブドウ球菌症	252	191	3	137	2,270	902	406	906	1,145	1,118
	腹 水 症	2,898	2,944	2,484	2,236	2,266	2,501	3,251	4,000	3,810	8,039
	出 血	36	0	563	0	0	0	0	0	0	0
	炎 症	6,821	7,812	13,831	6,397	5,800	5,058	4,081	4,503	4,085	7,631
	腫 瘍	104	47	14	7	23	17	22	32	33	14
	黄 疸	3	1	1	0	0	0	2	2	0	0
	削瘦・発育不良	4,513	2,733	1,920	1,005	2,176	2,019	1,496	1,402	816	1,134
	放 血 不 良	200	129	113	81	530	617	451	230	110	86
	湯 漬 過 度	55	4	4	0	13	5	28	11	8	3
	そ の 他	117	51	132	44	98	62	16	5	24	50
計	17,270	19,510	22,949	11,893	25,867	15,331	14,083	21,362	19,504	33,989	
一 部 廃 棄	原 虫 病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	変 性	57,275	53,243	48,934	18,560	33,263	41,809	33,791	2,711	338	255
	出 血	1,139	909	540	239	679	716	989	13,927	31,833	38,262
	炎 症	12,943	18,184	11,981	11,158	19,592	28,191	27,423	43,120	43,834	42,316
	腫 瘍	11	3	0	0	1	24	13	0	2	0
	そ の 他	186	1,390	1,632	717	516	511	136	321	174	134
	計	71,554	73,729	63,087	30,674	54,051	71,251	62,352	60,079	76,181	80,967

成鶏

区分		年度									
		1 3	1 4	1 5	1 6	1 7	1 8	1 9	2 0	2 1	2 2
禁 止	腹 水 症	2,084	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	削瘦・発育不良	4,390	0	0	0	3	0	3	0	2	8
	放 血 不 良	1,001	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	湯 漬 過 度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	そ の 他	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
	計	7,475	0	0	0	7	0	3	0	2	8
全 部 廃 棄	鶏 白 血 病	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大 腸 菌 症	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	腹 水 症	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	炎 症	246	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	腫 瘍	1,451	0	0	0	2	0	0	0	1	0
	削瘦・発育不良	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	放 血 不 良	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	湯 漬 過 度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	1,751	0	0	0	3	0	0	0	1	0
一 部 廃 棄	変 性	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	出 血	294	0	0	0	0	0	0	0	5	0
	炎 症	2,453	0	0	0	0	0	0	0	1	4
	腫 瘍	2,447	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	そ の 他	20	0	0	0	1	0	0	0	0	3
	計	5,222	0	0	0	1	0	0	0	6	7

第 III 章 精 密 檢 查

Chapter III Results of Laboratory Inspection

1 牛海綿状脳症検査牛の年齢別頭数

Age Distribution of Cattle used for BSE(Bovine Spongform Encephalopathies) Test

(平成22年度)

区分	養老町立食肉事業センター				関市食肉センター			
	ア 生後24ヶ月齢以上のうち、生体検査において運動障害、知覚障害、反射又は意識障害等の神経症状が疑われたもの及び全身症状を呈する牛	イ 生後30ヶ月齢以上	ウ その他(ア及びイ以外)の牛	ア+イ+ウ	ア 生後24ヶ月齢以上のうち、生体検査において運動障害、知覚障害、反射又は意識障害等の神経症状が疑われたもの及び全身症状を呈する牛	イ 生後30ヶ月齢以上	ウ その他(ア及びイ以外)の牛	ア+イ+ウ
4月	44	343	512	899	0	0	0	0
5月	39	230	524	793	0	0	0	0
6月	57	231	424	712	0	0	0	0
7月	59	314	581	954	0	0	0	0
8月	73	278	502	853	0	0	0	0
9月	69	338	436	843	0	0	0	0
10月	35	331	472	838	0	0	0	0
11月	41	322	517	880	0	0	0	0
12月	41	316	682	1,039	0	0	0	0
1月	26	241	378	645	0	0	0	0
2月	26	238	465	729	0	0	0	0
3月	44	266	419	729	0	0	0	0
計	554	3,448	5,912	9,914	0	0	0	0

区分	合 計			
	ア 生後24ヶ月齢以上のうち、生体検査において運動障害、知覚障害、反射又は意識障害等の神経症状が疑われたもの及び全身症状を呈する牛	イ 生後30ヶ月齢以上	ウ その他(ア及びイ以外)の牛	ア+イ+ウ
4月	44	343	512	899
5月	39	230	524	793
6月	57	231	424	712
7月	59	314	581	954
8月	73	278	502	853
9月	69	338	436	843
10月	35	331	472	838
11月	41	322	517	880
12月	41	316	682	1,039
1月	26	241	378	645
2月	26	238	465	729
3月	44	266	419	729
計	554	3,448	5,912	9,914

2 牛海綿状脳症検査牛の生産県別頭数

Area Distribution of Cattle used for BSE Test

(平成22年度)

区 分	養老町立食肉事業センター							関市食肉センター						
	岐阜県	三重県	愛知県	福井県	静岡県	その他 の 県	計	岐阜県	三重県	愛知県	福井県	静岡県	その他 の 県	計
4月	173	76	387	31	33	199	899	0	0	0	0	0	0	0
5月	120	48	447	11	42	125	793	0	0	0	0	0	0	0
6月	151	42	349	17	35	118	712	0	0	0	0	0	0	0
7月	229	64	501	16	20	124	954	0	0	0	0	0	0	0
8月	186	54	467	14	28	104	853	0	0	0	0	0	0	0
9月	152	36	458	20	45	132	843	0	0	0	0	0	0	0
10月	126	54	458	24	32	144	838	0	0	0	0	0	0	0
11月	142	52	447	29	45	165	880	0	0	0	0	0	0	0
12月	181	48	487	26	36	261	1,039	0	0	0	0	0	0	0
1月	108	29	375	8	17	108	645	0	0	0	0	0	0	0
2月	146	24	374	26	20	139	729	0	0	0	0	0	0	0
3月	175	45	355	11	27	116	729	0	0	0	0	0	0	0
計	1,889	572	5,105	233	380	1,735	9,914	0	0	0	0	0	0	0

区 分	合 計						
	岐阜県	三重県	愛知県	福井県	静岡県	その他 の 県	合 計
4月	173	76	387	31	33	199	899
5月	120	48	447	11	42	125	793
6月	151	42	349	17	35	118	712
7月	229	64	501	16	20	124	954
8月	186	54	467	14	28	104	853
9月	152	36	458	20	45	132	843
10月	126	54	458	24	32	144	838
11月	142	52	447	29	45	165	880
12月	181	48	487	26	36	261	1,039
1月	108	29	375	8	17	108	645
2月	146	24	374	26	20	139	729
3月	175	45	355	11	27	116	729
計	1,889	572	5,105	233	380	1,735	9,914

3 牛海綿状脳症県内検査機関別頭数割合

Comparison of Cattle used for BSE Test with Inspecting offices in Gifu

(平成22年度)

検 査 機 関	検 査 頭 数 (頭)	全国合計中の割合 (%)
岐阜県食肉衛生検査所	9,914	0.8
岐阜県飛騨保健所	5,985	0.5
岐阜市保健所食肉衛生検査所	6,290	0.5
県 合 計	22,189	1.8
全 国 合 計	1,216,476	100.0

4 精密検査実施状況

(1) と畜

Meat Inspection

(平成22年度)

検査内容	検査件数	精密検査頭数	延べ検査検体数	検査項目					措置 格	置 棄	
				微生物検査	病理検査	理化学検査	抗菌性物質の検査				
							簡易等	HPLC			
と畜検査の病	細菌										
	炭疽										
	豚丹毒										
	結核病										
	放射菌病										
	豚コレラ										
	トキソプラズマ病										
	細菌性肝炎										
	その他										
	寄生虫										
	のう虫										
	ジストマ										
	その他										
	膿毒症										
	敗血症	疣状心内膜炎									
		壊疽性乳房炎									
		変性・その他									
	尿毒症										
	黄疸										
	水腫										
腫瘍	2	7		14					2		
白血病	79	170	79	328					79		
中毒諸症											
炎症	2	5		10				2			
変性及び萎縮											
その他	3	6		8				3			
小計	86	188	79	360	0	0	0	5	81		
モニタリング検査	268	470				3,870	1,644	268			
と畜場衛生対策向上事業	60	120	200								
食中毒事故防止対策事業	20	40	160								
病畜抗菌性物質検査											
保健所の依頼検査											
小計	348	630	360	0	0	3,870	1,644	268	0		
調査研究	カンピロバクター培養法の調査	25	25	25							
小計	25	25	25	0	0	0	0	0	0		
合計	459	843	464	360	0	3,870	1,644	273	81		

(2) 食鳥
Poultry Inspection

(平成22年度)

検査内容	検査件数	精密検査羽数	延べ検査検体	検査項目					措置 格	置廃 棄
				微生物検査	病理検査	理化学検査	抗菌性物質の検査			
							簡易等	HPLC		
食鳥検査の疾病	細菌	ひな白痢・サルモネラ								
		ブドウ球菌症								
	ウ	大腸菌症								
		ニューカッスル病								
	イル	マレック病								
		リンパ性白血病								
	ス	真菌症								
		その他								
	寄生虫	鶏コクシジウム症								
		鶏ロイコチトゾーム症								
	その他	その他								
		膿毒症								
	の	敗血症								
		黄疸								
	他	水腫								
		腫瘍								
	の	中毒諸症								
		尿毒症								
	疾	炎症								
		白血病								
病	中毒諸症									
	炎症									
		変性及び萎縮								
		その他								
小計		0	0	0	0	0	0	0	0	
モニタリング検査		88	235				2,205	878	88	0
保健所の依頼検査										
全国食肉衛生検査所協議会事業										
小計		88	235	0	0	0	2,205	878	88	0
調査研究	食鳥処理場機械調査									
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		88	235	0	0	0	2,205	878	88	0

5 食肉中の残留有害物質モニタリング検査結果

Monitoring Test of Injurious Agents in Livestock

平成23年度において実施した485検体の検査結果は次のとおりである

表1 平成23年度検査項目別検体数

検査項目	牛			豚			鶏		輸入肉			計
	筋肉	腎臓	脂肪	筋肉	腎臓	脂肪	筋肉	腎臓	牛肉	豚肉	鶏肉	
ペニシリン(PC)系												
テトラサイクリン(TC)系	52 ^{※1}	52		64 ^{※1}	64		69 ^{※1}	69	10 ^{※1}	15 ^{※1}	10 ^{※1}	405
マクロライド(ML)系												
アミノグリコシド(AG)系												
オキシテトラサイクリン(OTC)												
クロルテトラサイクリン(CTC)	52 ^{※1}	52		64 ^{※1}	64		69 ^{※1}	69	10 ^{※1}	15 ^{※1}	10 ^{※1}	405
テトラサイクリン(TC)												
抗生物質												
ジヒドロストレプトマイシン												
ストレプトマイシン	52 ^{※1}	52		64 ^{※1}	64		69 ^{※1}	69	10 ^{※1}	15 ^{※1}	10 ^{※1}	405
スペクチノマイシン	52 ^{※1}	52		64 ^{※1}	64		69 ^{※1}	69	10 ^{※1}	15 ^{※1}	10 ^{※1}	405
ベンジルペニシリン	52 ^{※1}	52		64 ^{※1}	64		69 ^{※1}	69	10 ^{※1}	15 ^{※1}	10 ^{※1}	405
スピラマイシン	52 ^{※1}	52		64 ^{※1}	64		69 ^{※1}	69	10 ^{※1}	15 ^{※1}	10 ^{※1}	405
チルミコシン	52 ^{※1}	52		64 ^{※1}	64		69 ^{※1}	69	10 ^{※1}	15 ^{※1}	10 ^{※1}	405
ネオマイシン	52 ^{※1}	52		64 ^{※1}	64		69 ^{※1}	69	10 ^{※1}	15 ^{※1}	10 ^{※1}	405
ゲンタマイシン	52 ^{※1}	52		64 ^{※1}	64		69 ^{※1}	69	10 ^{※1}	15 ^{※1}	10 ^{※1}	405
スルファメラジン(SMR)												
スルファモノメトキシ(SMMX)												
スルファジメトキシ(SDMX)												
スルファキノキサリン(SQ)												
フラゾリドン(FDZ) ^{※4}												
オキソリン酸(OXA)	52 ^{※1}			64 ^{※1}			69 ^{※1}		10 ^{※1}	15 ^{※1}	10 ^{※1}	220
合成抗菌剤												
クエン酸モランテル(MRT)												
ピリメタミン(PYR)												
ジフラゾン(DFZ)												
オルメプリム(OMP)												
スルファジミジン(SDD)	52 ^{※1}			64 ^{※1}			69 ^{※1}		10 ^{※1}	15 ^{※1}	10 ^{※1}	220
カルバドックス ^{※2}				10								10
フルベンダゾール				10								10
イベルメクチン			5 ^{※3}			5						10
内寄生虫												
トリクラベンダゾール	10											10
用剤												
クロサンテル									10			10
ナイカルバジン												
ジクラズリル							10					10
レバミゾール										10		10
ホルモン剤												
β-トレンボロン									10			10
(検査項目数)	(62)	(52)	(5)	(84)	(64)	(5)	(79)	(69)	(30)	(25)	(10)	(485)
計	1351	780	15	1680	960	5	1807	1035	280	400	255	8568

※1:抗生物質及び合成抗菌剤は、同一収去検体(筋肉及び輸入肉)を重複使用

※2:キノキサリン-2-カルボン酸を検査

※3:牛については、エプリノメクチン及びモキシデクチンも検査

※4:フラゾリドンはH23.12まで検査実施

表 2 平成23年度収去機関別検体数

収去機関	牛			豚			鶏			輸入肉			計		
	筋肉	腎臓	※1 指定物質	筋肉	腎臓	※2 指定物質	筋肉	腎臓	※3 指定物質	牛肉	※4 指定物質 (牛肉)	豚肉		※5 指定物質 (豚肉)	鶏肉
岐阜保健所										2	2	2	1	1	8
本巣・山県センター											2	1	1	1	5
西濃保健所							7	7	2	2	2	1	1	2	24
揖斐センター											2	2	1		5
関保健所				22	22	11	6	6	1		2	2			72
郡上センター											2	1	1	1	5
中濃保健所							4	4	1	2	2	1	1	1	16
東濃保健所							3	3	1	2	2	2	1	1	15
恵那保健所							13	13	2		1	1	1	1	32
飛騨保健所	28	28	8							2	2	2	1	1	72
下呂センター											1		1	1	3
食肉衛生検査所	24	24	7	42	42	14	36	36	3						228
計	52	52	15	64	64	25	69	69	10	10	20	15	10	10	485

※1: イベルメクチン、エプリノメクチン、モキシデクチン(6)、トリクラベンダゾール(10)

※2: キノキサリン-2-カルボン酸(10)、イベルメクチン(4)、フルベンダゾール(10)

※3: ナイカルバジン、ジクラズリル(10)

※4: クロサンテル(10)、β-オートレンボロン(10)

※5: レバミゾール(10)

検査結果

実施した 485検体 8,568項目全てについて、食品・添加物等の規格基準に適合していた。また、抗生物質と合成抗菌剤の違反件数は図1に示すように13年度以降0件であった。

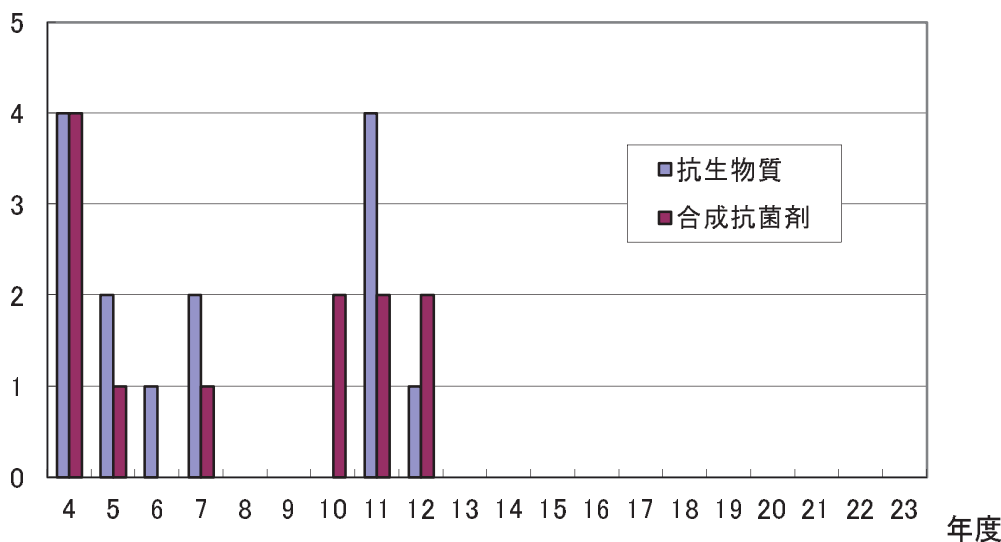


図 1 年度別の規格基準違反件数

(参考)

年度別検査検体及び項目

年 度	検体数	項目数	備 考
平成5年度	100	—	
6	100	—	
7	100	—	
8	100	—	
9	234	—	
10	275	—	
11	335	865	
12	347	907	
13	342	1,143	
14	340	1,660	
15	380	1,825	
16	420	2,159	
17	430	2,910	
18	450	3,070	
19	476	8,383	
20	485	8,595	
21	485	8,595	
22	485	8,597	
23	485	8,568	

6 病畜獣等における残留抗菌性物質検査結果

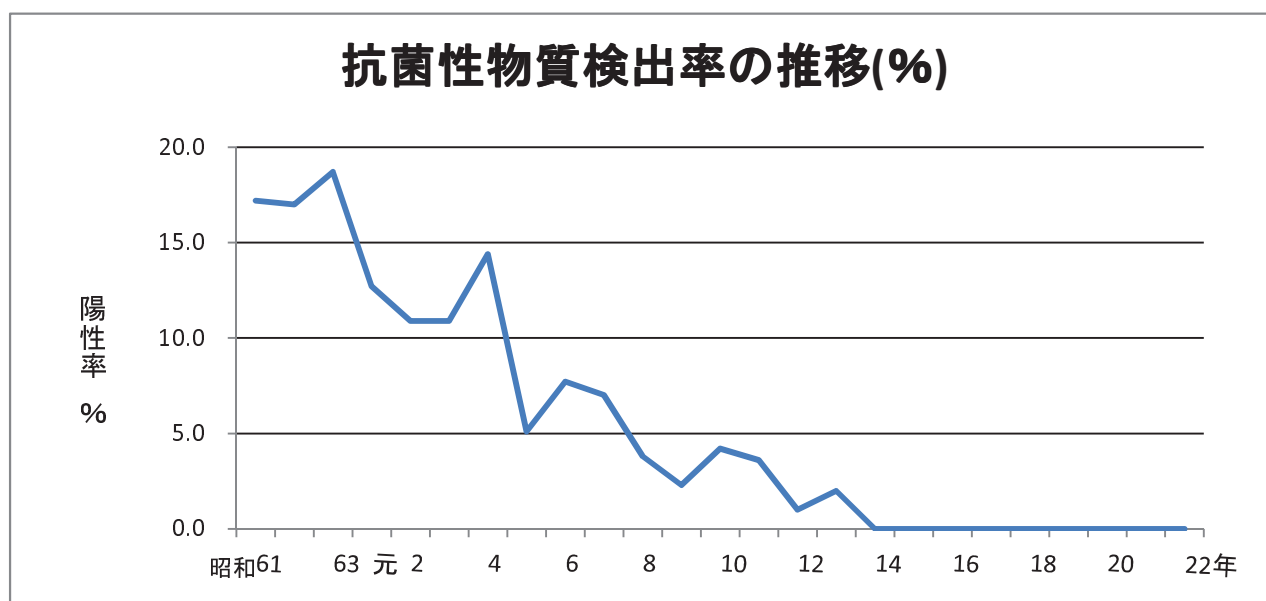
Results of Residue Test of Antibacterial Age

(1) 過去25年間の抗菌性物質検査状況

年度	病畜			切迫			一般			計		
	検査頭数	陽性数	割合(%)	検査頭数	陽性数	割合(%)	検査頭数	陽性数	割合(%)	検査頭数	陽性数	割合(%)
61	1,467	252	17.2	193	26	13.5	-	-	-	1,660	278	16.7
62	1,602	272	17.0	141	24	17.0	-	-	-	1,743	296	17.0
63	1,379	258	18.7	147	27	18.4	26	7	26.9	1,552	292	18.8
元	1,217	155	12.7	95	13	13.7	14	1	7.1	1,326	169	12.7
2	1,405	154	10.9	23	2	8.7	-	-	-	1,428	156	10.9
3	1,041	113	10.9	14	3	21.4	12	2	16.7	1,067	118	11.1
4	473	68	14.4	6	1	16.7	9	1	11.1	488	70	14.3
5	355	18	5.1	-	-	-	7	-	-	362	18	5.0
6	1,129	87	7.7	-	-	-	9	2	-	1,139	87	7.8
7	1,249	87	7.0	2	-	-	12	-	-	1,263	87	6.9
8	1,199	46	3.8	1	-	-	6	-	-	1,206	46	3.8
9	1,105	25	2.3	-	-	-	-	-	-	1,105	25	2.3
10	1,114	47	4.2	-	-	-	-	-	-	1,114	47	4.2
11	1,263	46	3.6	-	-	-	-	-	-	1,263	46	3.6
12	105	1	1.0	-	-	-	-	-	-	105	1	1.0
13	50	1	2.0	-	-	-	-	-	-	50	1	2.0
14	18	0	0.0	-	-	-	-	-	-	18	-	-
15	0	0	0.0	-	-	-	32	-	-	32	-	-
16	1	0	0.0	-	-	-	25	-	-	26	-	-
17	1	0	0.0	-	-	-	8	-	-	9	-	-
18	0	0	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
19	0	0	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20	0	0	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
21	0	0	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
22	0	0	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注) 陽性数は、腎臓での陽性頭数を示す。

なお、平成12年度以降は、当所で定めた「病畜獣における残留抗菌性物質検査実施要領」に基づく結果である。



7 と畜場における衛生管理の向上対策事業

Tests on Preventive Measures against Microbiological Contamination of Meats

当県では、と畜場の衛生管理の向上を目的に、「と畜場衛生対策向上事業」として、県内各と畜場における枝肉及び施設等の細菌汚染実態調査を実施し、関係者に対する衛生指導の一助としている。

以下は、平成22年度事業の概要である。

<実施方法>

調査期間 平成22年の8～10月
 調査方法 「平成22年度と畜場衛生対策向上事業の実施について」（平成22年7月16日付け生衛第298号）に基づき実施した
 対象施設 養老町立食肉事業センター
 調査内容 下表（表-1）のとおり実施した

表-1 調査内容及び検体数

	畜種	部位	検体数
I. 枝肉の微生物汚染実態調査	牛	枝肉 (胸・肛門周囲部)	20 枝肉×2 箇所 (計 40 検体)
	豚	枝肉 (胸・肛門周囲部)	20 枝肉×2 箇所 (計 40 検体)
II. 牛枝肉グリア繊維性酸性タンパク残留量調査	牛	枝肉 (頸椎周囲・外側腹部)	20 枝肉×2 箇所 (計 40 検体)

<結果>

I. 枝肉の微生物汚染実態調査

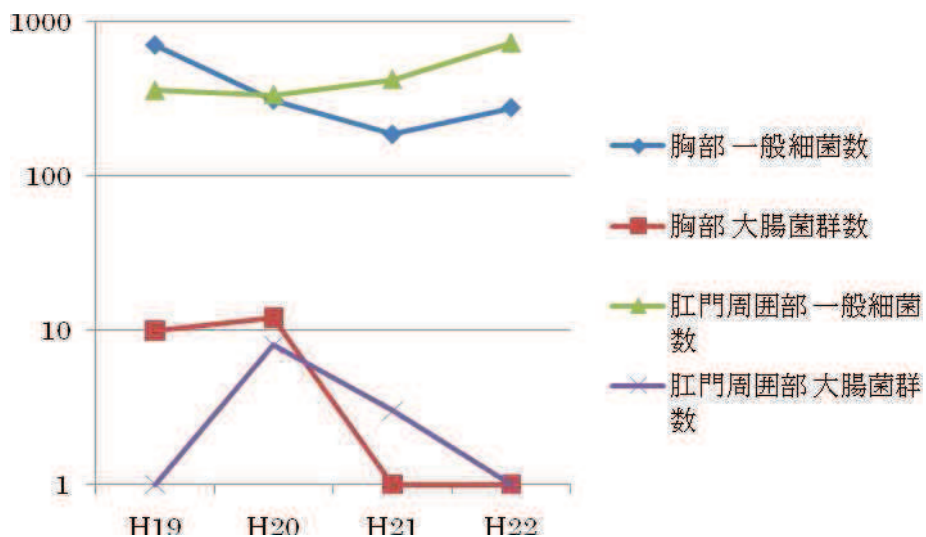
1) 牛枝肉

表-2 牛枝肉の汚染状況 (cfu/cm²)

部位	検査項目	H22	H19	H20	H21
胸部	一般細菌数	1.6×10 ²	7.1×10 ²	3.1×10 ²	1.9×10 ²
	大腸菌群数	< 10	1.0×10	1.2×10	< 10
肛門 周囲部	一般細菌数	7.4×10 ²	3.6×10 ²	3.4×10 ²	4.2×10 ²
	大腸菌群数	< 10	< 10	< 10	< 10

* 数値は各期、各年度別に検査検体の平均値を算出。

図-1 牛枝肉の年度別微生物汚染状況



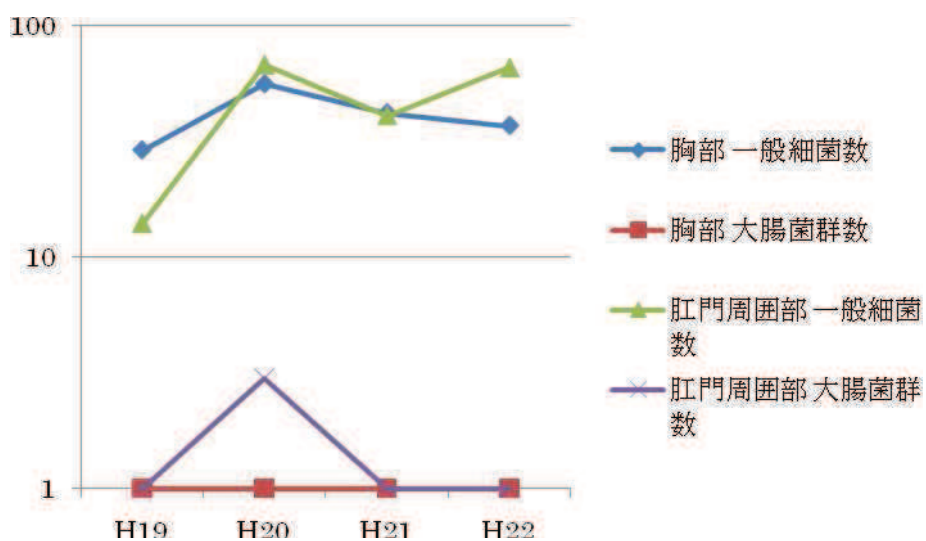
2) 豚枝肉

表-3 牛枝肉の汚染状況 (cfu/cm²)

部位	検査項目	H22	H19	H20	H21
胸部	一般細菌数	6.8×10	2.9×10	5.6×10	4.2×10
	大腸菌群数	< 10	< 10	< 10	< 10
肛門周囲部	一般細菌数	7.2×10	1.4×10	6.8×10	4.1×10
	大腸菌群数	< 10	< 10	< 10	< 10

* 数値は各期、各年度別に検査検体の平均値を算出。

図-2 豚枝肉の年度別微生物汚染状況



II. 牛枝肉グリア繊維性酸性タンパク残留量調査

表-4 GFAP 残留度別検体数

GFAP 残留度	H22	
	頸椎周囲	外側腹部
0	34	40
1	6	0
2	0	0
3	0	0
4	0	0
計	40	40

表-5 GFAP 残留度別検体数

※GFAP 残留量	
3ng 未満/10cm ²	0
3ng 以上 6ng 未満/10cm ²	1
6ng 以上 9ng 未満/10cm ²	2
9ng 以上 12ng 未満/10cm ²	3
12ng 以上/10cm ²	4

第Ⅳ章 調査研究・その他の業務

ChapterⅣ Investigation Research and Other Business

1 学会等発表

演 題 名	発 表 者	学会等名又は発表誌
〔平成16年度〕		
○牛の前肢皮膚にみられた腫瘍	池 上 幸 子	全国食肉衛生検査所協議会病理部会研修会 (H16.5 相模原市)
○と畜場における牛枝肉及び牛肝臓の腸管出血性大腸菌 O-157 汚染実態調査	古 田 紀 子	岐阜県公衆衛生研修会 (H16.7 多治見市)
○大型小売店で販売された鶏肉のサルモレラ汚染調査	亀 山 芳 彦	岐阜県食品衛生監視員研修会 (H16.7 岐阜市) 中部獣医師会連合会大会日本獣医公衆衛生学会 (H16.8 岐阜市) 東海北陸ブロック食品衛生監視員研修会 (H16.8 金沢市)
○BSEスクリーニング検査結果に影響する因子の検索	藤 村 美 奈 子	全国食品衛生監視員研修会【誌上発表】 (H16.8 金沢市)
○牛の増殖生性好酸球性小葉間静脈炎の病理組織学的検討	池 上 幸 子	中部獣医師会連合会大会日本獣医公衆衛生学会 (H16.8 岐阜市) 中部獣医師会連合会大会日本獣医公衆衛生学会 (H16.8 岐阜市)
○馬の肝臓	水 谷 健 士	全国食肉衛生検査所協議会東海・北陸ブロック研修会 (H16.11 富山市)
○食鳥処理場におけるサルモネラの定量的調査	亀 山 芳 彦	全国食肉衛生検査所協議会病理部会研修会 (H16.11 横浜市) 全国食肉衛生検査所協議会微生物部会研修会 (H16.11 横浜市) 岐阜県食肉衛生検査技術研修会 (H17.2 岐阜市)
○馬の肝細胞癌	水 谷 健 士	鶏病研究会岐阜県支部鶏病技術研修会 (H17.3 岐阜市)
○平成16年度食肉中の残留物質モニタリング検査結果	駒 井 真 由 美	岐阜県食肉衛生検査技術研修会 (H17.2 岐阜市)
○馬の肝及び腸病変	酢 谷 奈 津	岐阜県食肉衛生検査技術研修会 (H17.2 岐阜市)
○病畜棟で処理される牛枝肉の微生物汚染実態調査	古 田 紀 子	岐阜県食肉衛生検査技術研修会 (H17.2 岐阜市)

演 題 名	発 表 者	学会等名又は発表誌
〔平成17年度〕		
○馬の肝臓および盲・結腸病変	酢 谷 奈 津	全国食肉衛生検査所協議会病理部会研修会発表 (H17. 5 相模原市)
○馬の陰囊の腫瘍	水 谷 健 士 〃	全国食肉衛生検査所協議会東海・北陸ブロック研修会発表 (H17. 9 名古屋市) 全国食肉衛生検査所協議会病理部会研修会発表 (H17. 11 相模原市)
○食肉中の残留物質モニタリング検査について	奥 村 拓 矢	岐阜県公衆衛生研修会発表 (H17.10 大垣市)
○鶏の肝細胞癌	酢 谷 奈 津	平成17年度食肉衛生検査技術研修会発表 (H18.2 岐阜市)
○牛の心臓血管筋腫	丸 山 美 香	平成17年度食肉衛生検査技術研修会発表 (H18.2 岐阜市)
○平成17年度食肉中の残留物質モニタリング調査結果	山 崎 美 恵	平成17年度食肉衛生検査技術研修会発表 (H18.2 岐阜市)
○牛のカンピロバクター属菌保菌実態調査	河 合 邦 育	平成17年度食肉衛生検査技術研修会発表 (H18.2 岐阜市)
○牛枝肉等における脳・脊髄組織の残留および汚染実態調について	水 谷 健 士	平成17年度食肉衛生検査技術研修会発表 (H18.2 岐阜市)

演 題 名	発 表 者	学会等名又は発表誌
〔平成18年度〕		
○牛のカンピロバクター属菌保有実態調査第2報	河 合 邦 育	平成18年度食肉衛生検査技術研修会発表 (H19.2 岐阜市)
○馬の高度黄疸と血清中総ビリルビン濃度についての検討	山 崎 美 恵	全国食肉衛生検査所協議会東海・北陸ブロック研修会発表 (H18.11 名古屋市)
○LC/MSを用いた動物用医薬品等の一斉分析について	石 塚 敏 幸	平成18年度食肉衛生検査技術研修会発表 (H19.2 岐阜市)
○豚の皮下腫瘍	水 谷 健 士	全国食肉衛生検査所協議会病理部会研修会発表 (H18. 5 相模原市)
○牛の腹膜の結石を伴う病変	丸 山 美 香	全国食肉衛生検査所協議会病理部会研修会発表 (H18.11 相模原市)
○豚の抗酸菌症	西 脇 恵 美	平成18年度食肉衛生検査技術研修会発表 (H19.2 岐阜市)
○牛枝肉等における脳・脊髄組織の残留及び汚染実態調査について (第2報)	水 谷 健 士	平成18年度食肉衛生検査技術研修会発表 (H19.2 岐阜市)
○平成18年度食肉中の残留有害物質モニタリング調査結果	大 島 咲 子	平成18年度食肉衛生検査技術研修会発表 (H19.2 岐阜市)

演 題 名	発 表 者	学会等名又は発表誌
〔平成19年度〕		
○牛のカンピロバクター属菌保有実態調査	山 田 健 嗣	平成19年度全国食肉衛生検査所協議会東海・北陸ブロック研修会発表 (H19.11 静岡市) 平成19年度岐阜県公衆衛生研修会発表 (H19.12 各務原市) 平成19年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会発表 (H20.2 岐阜市)
○と畜検査データを活用した食の安心・安全への取り組み	藤 田 恵 子	平成19年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会発表 (H20.2 岐阜市)
○豚の皮下腫瘍	西 脇 恵 美	平成19年度全国食肉衛生検査所協議会病理部会第55回病理研修会発表 (H19.11 相模原市) 平成19年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会発表 (H20.2 岐阜市)
○と畜検査における牛白血病の概要について	道 添 敏 隆	平成19年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会発表 (H20.2 岐阜市)
○LC/MSを用いたセファロスポリン系抗生 物質の検出法について	岩 平 久 志	平成19年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会発表 (H20.2 岐阜市)

演 題 名	発 表 者	学会等名又は発表誌
<p>〔平成20年度〕</p> <p>○と畜検査データを活用した食の安全・安心への取り組み</p> <p>○と畜場における腸管出血性大腸菌（O157、O26）汚染実態調査について（と畜作業の周辺環境からのアプローチ）</p> <p>○液体クロマトグラフ質量分析装置月高速（LC/MS）を用いたテトラサイクリン系抗生物質の検出方法について</p> <p>○牛白血病検査マニュアルの作成について</p> <p>○平成19年度および平成20年度食肉中の残留物質モニタリング検査結果</p> <p>○解体後検査で見られた牛白血病の肉眼学的所見</p>	<p>渡 辺 満 夫</p> <p>亀 山 芳 彦</p> <p>齋 藤 愛</p> <p>水 谷 健 士</p> <p>山 田 典 子</p> <p>今 村 圭 太</p>	<p>平成20年度岐阜県公衆衛生研究会発表 (H20.10 高山市)</p> <p>平成20年度全国食肉衛生検査所協議会東海北陸ブロック技術研修会発表 (H20.11 松阪市)</p> <p>平成20年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会発表 (H21. 2 岐阜市)</p> <p>平成20年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会発表 (H21. 2 岐阜市)</p> <p>平成20年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会発表 (H21. 2 岐阜市)</p> <p>平成20年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会発表 (H21. 2 岐阜市)</p> <p>平成20年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会発表 (H21. 2 岐阜市)</p>

演 題 名	発 表 者	学会等名又は発表誌
〔平成21年度〕		
○と畜検査時に発見された牛白血病について	水 谷 健 士	平成21年度全国食肉衛生検査所協議会東海・北陸ブロック研修会発表 (H21.10 金沢市) 平成21年度全国食肉衛生検査所協議会発表 (H22. 1 東京都)
○牛の腸管出血性大腸菌O157、O26の保有状況調査について	大 西 結	平成21年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会発表 (H22. 2 岐阜市)
○牛胆汁中のカンピロバクター培養法の検討について	亀 山 芳 彦	平成21年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会発表 (H22. 2 岐阜市)
○牛の子宮平滑筋腫について	水 谷 健 士	平成21年度岐阜県食肉衛生技術検査研修会発表 (H22. 2 岐阜市)
○牛の白血病発症のトレーサビリティによる調査について	奥 村 拓 矢	平成21年度岐阜県食肉衛生技術検査研修会発表 (H22. 2 岐阜市)
○平成21年度食肉中の残留物質モニタリング検査事業について	山 田 典 子	平成21年度岐阜県食肉衛生技術検査研修会発表 (H22. 2 岐阜市)
○HPLCによる動物用医薬品等の一斉試験法Ⅲ（畜水産物）の検討について	齋 藤 愛	平成21年度岐阜県食肉衛生技術検査研修会発表 (H22. 2 岐阜市)

演 題 名	発 表 者	学会等名又は発表誌
〔平成22年度〕		
○カンピロバクター培養法の検討について	足 立 知 香	平成22年度全国食肉衛生検査所協議会東海・北陸ブロック研修会発表 (H22.11 名古屋市) 平成22年度全国食肉衛生技術研修会発表 (H23. 1 東京都) 平成22年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会発表 (H23. 2 岐阜市)
○と畜検査時に発見された牛白血病について －発生状況調査と検査マニュアルの作成について－	水 谷 健 士	平成22年度日本獣医公衆衛生学会 (H23. 2 岐阜市)
○ベロ毒素 (VT) 遺伝子検出率を用いたと畜場の衛生指導について	井 上 紘 子	平成22年度日本獣医公衆衛生学会発表 (H23. 2 岐阜市) 平成22年度岐阜県食肉衛生技術検査研修会発表 (H23. 2 岐阜市)
○牛の肺と腎臓にみられた線維肉腫 －牛白血病の鑑別を中心に－	水 谷 健 士	平成22年度岐阜県食肉衛生技術検査研修会発表 (H23. 2 岐阜市)
○牛の白血病発症の特異症例について －牛白血病検査マニュアルの改訂－	奥 村 拓 矢	平成22年度岐阜県食肉衛生技術検査研修会発表 (H23. 2 岐阜市)
○モニタリング検査で抗生物質の混入を疑った事例について	大 西 結	平成22年度岐阜県食肉衛生技術検査研修会発表 (H23. 2 岐阜市)
○モニタリング検査 (簡易法) 陽性時の原因物質確認のための一手法の提案	齋 藤 愛	平成22年度岐阜県食肉衛生技術検査研修会発表 (H23. 2 岐阜市)

カンピロバクター培養法の検討について

岐阜県食肉衛生検査所 足立 知香

はじめに

近年、食肉由来の *Campylobacter jejuni* (以下「*C.jejuni*」という) を原因とする食中毒が多発しており、最も重要な食中毒原因物質の一つとされている。当所では、と畜場由来の検体に対するカンピロバクターの定期的なスクリーニング検査を実施するにあたり、培養法をより省力化するため、密封培養法の有効性を定性、定量検査について検討してきた。一方で、密封培養法では多検体の処理時の煩雑さが解決されていない。このため、多検体処理時に、大幅な省力化が可能な定性試験法として、マイクロプレートを活用したシール培養法を検討した。シール培養法は通気性のない袋に変わりシールを用いてマイクロプレートに封をすることで密封培養としたものである。

材料と方法

1. 96穴マイクロプレートを用いたシール培養法による分離試験

胆汁由来の *C.jejuni* 3株をプレストン培地に接種し、42℃、24時間培養した。この培養液をプレストン培地を用いて10倍階段希釈し、 10^{-1} から 10^{-10} の希釈液を作成した。このうち 10^{-6} から 10^{-10} の希釈液各 300 μ l を、96穴マイクロプレート (Nunclon 社) のセルに入れ、シールで密封した後、42℃、24時間好気培養した。残液は、ガスパック法による微好気培養により 42℃、24時間培養した。培養液は CCDA 培地 (関東化学) に塗抹し 42℃、48時間微好気培養を行い、発育したコロニーについて、同定を行った。

2. 24穴マイクロプレートを用いたシール培養法による分離試験

胆汁由来の *C.jejuni* 1株をプレストン培地およびボルトン培地に接種し、42℃、24時間培養した。培養液をそれぞれの培地で10倍階段希釈し、 10^{-6} から 10^{-10} の希釈液を作成した。24穴マイクロプレート (Nunclon 社) のセルに、それぞれの希釈液 2.7ml、1.5ml、0.7ml を入れ、シールで密封した後、42℃、24時間培養した。残液はガスパック法による微好気培養により 42℃、24時間培養した。培養液は、CCDA 培地による分離、同定を行った。

3. 牛の胆汁からの分離試験

肥育牛 20頭の胆汁を無菌的に採取し、空気を残さないように密封し冷却運搬した。胆汁各 2ml をプレストン培地およびボルトン培地 18ml に加え、混釈液を 2.7ml ずつ 24穴マイクロプレートのセルに分注し、シールで密封した後、42℃、24時間培養した。残液はガスパック法による微好気培養で 42℃、48時間培養した。培養液は、CCDA 培地に塗抹し 42℃、48時間微好気培養を行い、発育したコロニーについて、同定を行った。

同定は CCDA 培地に発育したコロニーについて、グラム染色、チトクローム試験、運動性の確認を行い、PCR法による同定を行った。PCR法は培地上のコロニーから熱抽出法でテンプレートを作成し、プライマーは HIP400F を用いた。

成績

1. 96穴マイクロプレートを用いたシール培養法による分離試験

3株ともに微好気培養による培養では、 10^{-8} から 10^{-9} の希釈液で *C.jejuni* が分離されたのに対し、96穴マイクロプレートでの培養では、2株で 10^{-6} から 10^{-9} で分離され、1株は分離されなかった

(表1)。

表1 96穴マイクロプレートを用いたシール培養法による分離試験

菌株 No.	培養法	10 ⁻⁶	10 ⁻⁷	10 ⁻⁸	10 ⁻⁹	10 ⁻¹⁰
1	マイクロプレート	○	○	×	×	×
	微好気	○	○	○	○	×
2	マイクロプレート	○	○	×	○	×
	微好気	○	○	○	×	×
3	マイクロプレート	×	×	×	×	×
	微好気	○	○	○	×	×

2. 24穴マイクロプレートを用いたシール培養法による分離試験

プレストン培地による培養では、微好気培養で10⁻⁶から10⁻⁸の希釈液で分離されたのに対し、24穴マイクロプレートでの培養では、希釈液を2.7ml分注した場合は10⁻⁶から10⁻⁸、1.4mlでは10⁻⁶から10⁻⁷、0.7mlでは10⁻⁶のみで分離された(表2)。

ボルトン培地による培養では、微好気培養で10⁻⁶から10⁻⁸の希釈液で分離されたのに対し、24穴マイクロプレートでの培養では、希釈液を2.7ml分注した場合は10⁻⁶から10⁻⁸、1.4mlでは10⁻⁶のみで、0.7mlでは分離されなかった。

表2 プレストン、ボルトン培地を用いたマイクロプレート培養法の比較

プレストン 培地容量	微好気 培養	シール培養法			ボルトン 培地容量	微好気 培養	シール培養法		
		2.7ml	1.4ml	0.7ml			2.7ml	1.4ml	0.7ml
10 ⁻⁶	○	○	○	○	10 ⁻⁶	○	○	○	
10 ⁻⁷	○	○	○		10 ⁻⁷	○	○		
10 ⁻⁸	○	○			10 ⁻⁸	○	○		
10 ⁻⁹					10 ⁻⁹				

3. 牛の胆汁からの分離試験

胆汁20検体中5検体で*C.jejuni*が分離された。このうち、プレストン培地の微好気培養で5検体、ボルトン培地の微好気培養で4検体で分離された。一方、シール培養法を用いた場合は、プレストン培地で3検体、ボルトン培地では4検体検出された(表3)。

表3 牛の胆汁からの *C.jejuni* 分離試験

検体 No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
微好気培養	プレストン培地	○	×	×	○	○	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×
	ボルトン培地	○	×	×	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
シール培養法	プレストン培地	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×
	ボルトン培地	○	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×

考 察

と畜検査、食鳥検査において *C.jejuni* は、微生物制御の対象として重要性を増している。と畜場、食鳥処理場での汚染が食中毒の発生に繋がるとの指摘が多くなされており、このため、*C.jejuni* の定量的な検査は、汚染実態の把握に欠かせないものとなっている。一方で、日常的なスクリーニングには定性検査が用いられることが多いが、*C.jejuni* の定性試験は、培地の作成、微好気での増菌培養、微好気での選択分離培養等、操作が煩雑で、多検体の処理には困難が伴う。

当所では、密封培養により増菌培養段階の省力化を図ってきたが、今回さらに簡素化するため、マイクロプレートによるシール培養法を検討した。ガスパックを用いたマイクロプレートによる微好気培養法は、栗原ら⁽¹⁾が報告しており、良好な結果を得ているが、さらに省力化を図るため、シールによる密封培養法を検討した。

密封培養法では、液体培地中の酸素濃度が菌の増殖に伴い減少し、結果的に *C.jejuni* の増殖に適当な環境となった部分ができると考えられており、培地が外気と接触しないことが必須条件となる。シール培養法では、適切な培地液量と、密封状態が保たれば、定性試験法として活用できる可能性が示唆された。今後、培養条件による菌量の増殖パターンや、さらに多くの検体で従来法との比較を行い、その実用性について検討を重ねたい。

参考文献

(1)栗原健ら：広島県獣医師会雑誌, 20, 66-69(2005)

ベロ毒素（VT）遺伝子を用いたと畜場の衛生管理について

岐阜県食肉衛生検査所 井上 鉦子

はじめに

と畜場の処理工程において、牛の枝肉が糞便や腸内容物に汚染されると、腸管出血性大腸菌（以下 EHEC）等の食中毒菌が付着する可能性が大きい。このため、当所では従来より、枝肉の拭き取り検査（一般細菌数、大腸菌群数）の結果をもとに作業従事者への衛生教育を行ってきたが、糞便汚染の危険性を十分認識させるには至らなかった。また、EHEC やカンピロバクターなど食中毒菌による汚染実態調査も実施してきたが、検出事例がほとんど無い事や、検体数が少数に限られる等の理由により、衛生教育の資料として十分活用できなかった。また、作業従事者には、枝肉への塩素水噴霧や流水による洗浄に頼る傾向が根強く、汚染そのものを減らすことには消極的な面が見受けられた。このため、新たな枝肉の糞便汚染の指標として、VT 遺伝子の検出率を活用し、作業従事者の衛生教育に応用することを検討した。

材料と方法

1. 牛の直腸便、枝肉からの VT 遺伝子検出と EHEC（0157、026）の分離

平成 21 年 5 月～11 月に管内 Y と畜場に搬入された牛 80 頭について、直腸便と枝肉の拭き取り検体（以下拭き取り）からの VT 遺伝子検出と EHEC（0157、026）の分離を試みた。

直腸便は、解体ライン上で直腸結紮直前に綿棒で採取し、通知法により培養した。拭き取りは、最終洗浄後の枝肉で肛門周囲部と胸部をそれぞれ 100cm²滅菌タンポンで拭き取り、一つに合わせ、100cc のノボビオシン加 mEC 培地（極東製薬工業）を加え、ストマックした後、通知法により培養した。分離培地は、CT-SMAC 培地（関東化学）、クロモアガー0157 培地（関東化学）CT-RMAC 培地（極東製薬工業）、クロモアガー0157・026 培地（関東化学）を用いた。

VT 遺伝子の検出は、直腸便はアルカリ熱抽出法により、拭き取りはアルカリ熱抽出変法¹⁾により、ノボビオシン加 mEC 培地の培養液よりテンプレートを作成し、プライマーセット EVC（TaKaRa）を用いて所定の条件で PCR 検査を実施した。

2. 枝肉の EHEC 保有状況調査

平成 22 年 3 月～7 月に Y と畜場に搬入された牛 20 頭について、最終洗浄後の枝肉の拭き取りから EHEC の分離を試みた。通知法による培養と、枝肉への塩素水噴霧による損傷菌に対応するために、Bact Pepton Water（Difco、以下 BPW）による前培養（37℃、18 時間）を加えた通知法による培養（BPW+通知法）を行った。

分離培地は、DHL 培地（日水製薬）、CT-SMAC 培地、クロモアガー0157 培地、CT-RMAC 培地、クロモアガー0157・026 培地を用い、発育した大腸菌を疑うコロニーを一培地につき 1～8 個釣菌した。PCR による VT 産性能のスクリーニングを行い、定法により大腸

菌と同定されたものについて、病原大腸菌免疫血清（デンカ生研）により、血清型別を行った。

結 果

1. 牛の直腸便、枝肉からの V T 遺伝子検出と EHEC (0157、026) の分離

VT 遺伝子の検出は、直腸便で 80 検体中 47 検体、枝肉は 80 検体中 8 検体であった。また、直腸便から 0157 が 80 検体中 8 検体、026 が 2 検体分離された。枝肉からは、菌自体は検出されなかった。

2. 枝肉の EHEC 保有状況調査

VT 遺伝子は 20 検体中、通知法で 11 検体、BPW+通知法で 10 検体で検出された。さらに、EHEC は通知法で 5 検体、BPW+通知法では 2 検体で検出され、055 (VT1, 2) が 2 株、0124 (VT2) が 1 株、OUT (VT2) が 7 株分離された (表 1)。

表 1 枝肉の EHEC 保有状況

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
通知法	VT+			VT+			VT+		VT+	
	OUT(VT2)								OUT(VT2)	
BPW+ 通知法	VT+		VT+				VT+		VT+	
	OUT(VT2)						0124(VT2)			
							OUT(VT2)			
No.	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
通知法		VT+	VT+	VT+	VT+	VT+	VT+		VT+	
		055(VT1,2)	055(VT1,2)		OUT(VT2)					
		OUT(VT2)	OUT(VT2)							
BPW+ 通知法		VT+	VT+	VT+	VT+		VT+		VT+	

考 察

と畜場における解体作業中に糞便汚染による枝肉の EHEC 汚染の危険性は、従来より指摘されてきたが、Y と畜場では有効な対策が行われてこなかった。これは、当所の検査で、枝肉からは 0157、026 とともに過去 1 例も検出事例がないことや、最終洗浄前において、塩素水の噴霧を行っており、その効果を従事者が過信してきたことなど、複数の要因によると思われる。今回の調査では、解体した牛の腸内に EHEC が保菌されていること、枝肉に明確な糞便汚染の痕跡 (VT 遺伝子) があることを組み合わせて、枝肉の EHEC 汚染の危険性

を解説することを試みた。VT 遺伝子を糞便汚染の指標として衛生管理に活用する検討を進めたが、従事者との意見交換の中で、塩素消毒により死菌の状態が存在する VT 遺伝子であれば問題ない、との意見が聞かれた。一般細菌数や大腸菌群数が塩素水噴霧の強化によって有る程度減少したことも影響し、従事者は依存する傾向が強かった。このことから、枝肉からの EHEC の検査をすすめ、塩素の影響を調査したが、生菌の状態では EHEC が複数分離された。これにより、塩素水噴霧や、流水洗浄に頼ることなく、枝肉の糞便汚染自体を防ぐ努力を、より一層求める指導の根拠とすることができた。

これらの結果は、作業衛生責任者には随時、一部従事者には検体採取時等に説明し、指導を行った。また、従事者全員を対象にした講習会で説明し、問題意識の共有に活用した。

今後は、定期的な VT 遺伝子のスクリーニングを行い、作業の問題点の洗い出しや、生体洗浄・腸内容物の付着防止・枝肉のトリミングなどの適正な衛生管理の指導指標として活用していきたい。

参考文献

- 1) 片山理恵ら：第 27 回 全国食肉衛生検査所協議会 微生物部会総会・研修会資料

牛の肺と腎臓にみられた線維肉腫

～牛白血病との鑑別を中心に～

岐阜県食肉衛生検査所 水谷 健士

はじめに

と畜検査で複数の臓器にわたる腫瘍がみられた場合、全身性の腫瘍として全部廃棄処分される。当所においては、牛の場合そのほとんどは牛白血病によるものである。

今年度、病理組織学的に線維肉腫と診断した全身性の腫瘍に遭遇したため、その概要と牛白血病の病変との比較について報告する。

材料及び方法

(材料)

症例は、ホルスタイン種の経産牛(年齢10歳4ヶ月)で、一般畜として搬入され病歴は不明であった。生体検査時に著変は認められなかった。解体後検査時に肺と腎臓に腫瘍を認めたため採材し検索材料とした。

(方法)

10%中性緩衝ホルマリンに固定後、常法に従いパラフィン切片を作成した。ヘマトキシリン・エオジン染色及びマッソン・トリクローム染色を施し、光学顕微鏡下で病理組織学的検索を行った。また、肉眼及び組織所見をもとに、牛白血病の病変との比較を行った。

結 果

(肉眼所見)

肺に鶏卵大から手拳大の硬い乳白色腫瘍が複数認められた。両側の腎臓にも大豆大からピンポン球大の同様な腫瘍が多数認められた。腎臓の包膜は癒着し、剥離するのが困難であった。肺門リンパ節及び内腸骨リンパ節は鶏卵大に腫脹していた。

(組織所見)

肺：核仁明瞭な明るい核と弱好酸性に染まる細胞質をもつ紡錘形の腫瘍細胞が錯綜していた。腫瘍細胞の異型性は高く、分裂像も観察された。正常組織との境界は不明瞭で、浸潤性に増殖していた。マッソン・トリクローム染色では、間質に豊富な膠原線維が観察され、紡錘形細胞を取り囲む像がみられた。

腎臓：肺と同様な腫瘍細胞の増殖がみられた。腫瘍組織の中に残存する糸球体や尿細管が観察された。

(牛白血病の病変との比較)

肉眼的および組織学的な違いは、下表のとおりである。

表1 牛白血病の病変との比較

	本症例	牛白血病
色及び硬さ	乳白色 充実性で硬い	白色 髄様で柔らかい
発生部位	肺と腎臓 (リンパ節の腫脹は軽度)	全身のリンパ節及び臓器 (肺の病変は少ない)
組織像	異型性の高い 紡錘形の腫瘍細胞が錯綜	リンパ芽球様の 腫瘍細胞がび慢性に増殖

考 察

肉眼及び組織所見から、肺と腎臓にみられた腫瘍は転移性の腫瘍であることが確認された。さらに、その組織像は異型性の高い紡錘形腫瘍細胞が膠原線維を伴いながら増殖していることなどから、線維芽細胞由来の悪性腫瘍である線維肉腫と診断した。

線維肉腫は犬と猫では比較的多くみられるが、他の動物ではまれである^{[1][2]}。また、鼻、口、皮膚の上皮下の結合組織に発生するものが多く^{[1][2]}、肺や腎臓での発生の報告は少ない。転移は10%程度の症例でみられ、肺に転移することがもっとも多いようである^[1]。本症例の肺病変については、皮膚などの腫瘍の転移巣であることも考えられたが、肉眼的には肺と腎臓の他に腫瘍病変は確認されなかったため、最大の腫瘍がみられた肺が原発巣である可能性が高いと考える。

次に、と畜場でよくみられる、牛白血病の病変との比較をすると、色や硬さなどいくつかの違いがみられた(表1)。それらの違いから、肉眼病変のみでもある程度の鑑別は可能であるが、場合によってはスタンプ標本による診断も併用する必要があると思われる。

今後も、牛白血病の病変と類似の症例については鑑別点について考察し、当所作成の「牛白血病検査マニュアル」の内容に盛り込んでいきたい。

参考文献

[1] K. V. F. Jubb, Peter C. Kennedy, Nigel Palmer: Pathology of Domestic Animals FORTH EDITION, Volume1, 725, ACADEMIC PRESS, INC(1991)

[2] 日本獣医病理学会編：動物病理学各論, 167, 442, 495, 文永堂出版(1998)

牛白血病の特異症例について

～牛白血病検査マニュアルの改訂～

岐阜県食肉衛生検査所 奥村 拓矢

はじめに

牛白血病の発生は全国的に増加傾向にあり、と畜場で発見される数も増加している。当所においても、本年度1月末現在で牛白血病と診断され、全部廃棄となった牛は、66頭、全検査頭数の0.78%と過去5年の同時期としては最多となっている。(図1) 当所では、平成19年度に「牛白血病検査マニュアル」(以下「検査マニュアル」という。)を整備して、病理組織学的診断を実施してきたが、病変の分布(図2)やその形態は多彩であった。

図1 牛白血病年度別発生頭数及び発生率

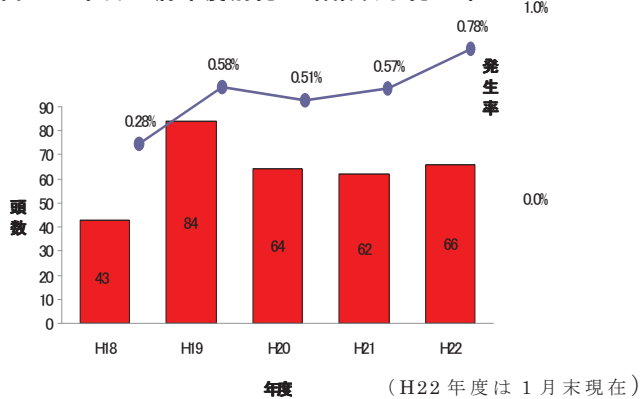
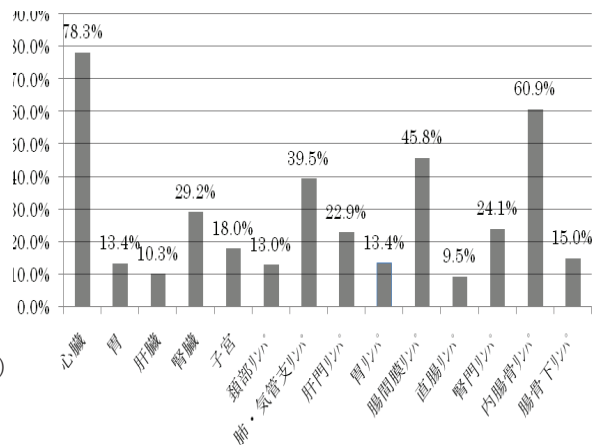


図2 腫瘍病変の臓器別発生率



今回、そのなかでも特異症例について紹介するとともに、それらの症例を検査マニュアルに加え、改訂するので報告する。

〔症例1〕

畜種：牛 品種：ホルスタイン

性別：雌（経産） 月齢：62ヶ月齢（5歳2ヶ月）

病歴：病畜として搬入 診断書病名はケトーシス、左後肢麻痺

1. 生体所見

栄養状態：削瘦 姿勢：伏臥 呼吸：正常

2. 肉眼所見

心臓：心耳、心筋腫瘍化

延髄門部腫瘍：小指頭大

内腸骨リンパ節：小児頭大（壊死が進んでいた。）

腸骨下リンパ節：鶏卵大

3. 病理組織学的所見

心耳：心筋線維間にリンパ芽球様の腫瘍細胞が増殖 心筋圧迫萎縮
星空像散見

延髄門部腫瘍：腫瘍部はリンパ芽球様の腫瘍細胞が増殖

外側ほど大きな出血巣あり

延髄との境界は比較的明瞭だが、延髄の一部にリンパ芽球様の腫瘍細胞が浸潤性に増殖 出血巣散見

4. 抗体検査（ゲル内沈降反応）：強陽性（gp 抗原+、p 抗原+）

5. 病理組織学診断名（病名）：リンパ肉腫（牛白血病）

〔症例2〕

畜種：牛 品種：和牛

性別：雌（経産） 月齢：62ヶ月（5歳2ヶ月）

病歴：一般畜として搬入 診断書病名は肝炎

1. 生体所見

栄養状態：並 姿勢：起立 呼吸：正常 その他：眼球突出

2. 肉眼所見

心臓：心耳、心筋腫瘍化

横隔膜筋肉：腫瘍化

第3胃壁腫瘍：ハンドボール大

3. 病理組織学的所見

心筋（心尖部）：心筋線維間にリンパ芽球様の腫瘍細胞が増殖

心筋圧迫萎縮 星空像散見

横隔膜筋肉：筋線維間にリンパ芽球様の腫瘍細胞が浸潤性に増殖

横隔膜筋圧迫萎縮 空胞変性（脂肪滴）多数

4. 抗体検査（ゲル内沈降反応）：陽性（gp 抗原+、p 抗原+）

5. 病理組織学診断名（病名）：リンパ肉腫（牛白血病）

まとめ

今回2症例について報告したが、他にも数例特異症例があった。これらを検査マニュアルに追補し、本年度末に改訂する予定である。

今後も牛白血病の特異症例を検査マニュアルに加える等、検査マニュアルの充実を図り、と畜検査の一助としていきたい。

モニタリング検査で抗生物質の混入を疑った事例について

岐阜県食肉衛生検査所 大西 結

【はじめに】

当検査所では、食品の安全性確保のため、平成4年から、県内と畜場及び食鳥処理場で処理された食肉と、県内で流通している輸入食肉の抗生物質及び合成抗菌剤等の残留物質モニタリング検査を実施している。

今回、平成22年度モニタリング検査において、当初、抗生物質の混入を疑ったが、その後の調査で、器具洗浄用の洗剤の混入が原因と推定された事例について報告する。

【経緯】

平成22年10月18日に実施したモニタリング検査の簡易検査で筋肉・腎臓各10検体、計20検体のうち、牛筋肉3検体、豚筋肉3検体でBS培地のみに阻止円形成が確認された。検査は「畜水産食品中の残留抗生物質簡易検査法」（平成6年7月1日付衛乳第107号）に示す方法（以下、簡易法）により実施した。BS培地にのみ阻止円を形成した感受性パターンからアミノグリコシド（以下、AG）系抗生物質によるものと推測された。しかし、6検体のいずれも異なる飼育農家でありながら、阻止円の大きさが6検体ともほぼ同じであった。更に、同一個体の腎臓検体では阻止円は形成されなかった。これらのことから、阻止円を形成した原因物質は筋肉に残留していたものではなく、検査過程において6検体に共通の汚染があったことが考えられた。

10月19日の判定をうけて、同日に阻止円を形成した6検体の再検査を、初回とは別の者が溶液の再調整及び検体の切り出しを、一つずつ工程を確認しながら実施した。しかし、初回と同様の阻止円を形成した。

これらのことから、検体自体が汚染されていることが推測されたため、10月20日に6検体の同一個体から再度検体を採取し検査を実施したところ、6検体全てで阻止円は形成されず、陰性が確認された。

【原因の究明と対策】

1 原因の究明

① 検体袋等の処理器具の汚染調査

AG系抗生物質標準品による、受付時の検体袋の汚染及び検体の切り出し時の汚染が推測されたため、溶媒で湿らせたペーパーディスクで袋を拭取り、感受性試験を実施したが阻止円は形成されなかった。同様に、溶媒で湿らせたペーパーディスクでブラシの柄や包丁を拭取ったが、阻止円は形成されなかった。

② 当時使用していた洗剤で阻止円形成を確認

当時使用していた中性洗剤（成分：界面活性剤、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム、アルキルエーテル硫酸ナトリウム）（購入時の容器からプラスチックビーカーに注ぎ、水道水で約5倍に希釈したもの）をペーパーディスクに浸して感受性試験を実施したところ、阻止円が形成された。

③ 阻止円形成の原因究明

洗剤自体に阻止円を形成する作用があることが考えられたため、新品の洗剤を用いて感受性試験を実施したところ、同じく阻止円形成が確認された。このことから、洗剤自体が原因である可能性が推定された。

BM、BS、MLの各培地を用いて、当時使用していた洗剤と新品の洗剤を1倍、10倍、100倍、1000倍、10000倍に段階希釈して感受性試験を実施した。その結果、両者ともBS培地で感受性が高く、前者は10倍、後者は100倍希釈で阻止円を形成することが確認された。このことから、洗剤自体が阻止円形成の原因であることが推定された。

洗剤は検体を細切するごとに包丁やまな板の洗浄に使用しており、これらの器具に残った洗剤で検体が汚染されたことが推測された。

以上のことから、10月19・20日に確認された阻止円形成は洗剤のコンタミネーション（以下、コンタミ）が原因だと推測された。

2 再現試験

まな板を洗剤とブラシで洗浄し流水と蒸留水ですすいだ後、ペーパーディスクで拭いたものを用いてBS培地で感受性試験を実施したところ、阻止円の形成が確認された。

陰性確認されている筋肉検体に1倍、10倍、100倍、1000倍、10000倍に段階希釈した洗剤を添加して感受性試験を実施したところ、100倍希釈液を添加した検体で阻止円を形成した。

これらのことから、まな板を軽くすすいだ程度では当洗剤がまな板に残留すること、また、当洗剤がコンタミした検体で感受性試験を実施した場合、培地の感受性の差によりAG系抗生物質様の阻止円を形成することが確認された。

3 洗剤の検出

高速液体クロマトグラフィーを用いて検体から洗剤を検出することを試みたが検出できなかった。また、同時に行った簡易法でも阻止円は形成しなかった。これは1ヶ月後の11月17日に実施したため、阻止円を形成した物質が分解もしくは失効したのと考えられた。

4 今後の対策

① まな板への洗剤の残留防止

これまでのまな板の洗浄は、まな板を洗剤とブラシで洗浄後、流水ですすぎ、その後、蒸留水ですすいでいた。今後は、まな板の微細な傷に入り込んだ洗剤が除去しきれないことがないように、まな板を流水中でブラッシングしながら十分すすぎ、その後、蒸留水ですすぐこととしてマニュアルを作成し、作業を標準化した。

② 洗剤の汚染防止

今回の事例は、洗剤自体による検体の汚染が強く疑われるものだったが、当初は検体や処理器具、洗剤などが抗生物質標準品の汚染を受けたと考えていた。当時は洗剤がビーカーに入れられており、その中に洗浄用ブラシをつけて使用していた。この方法では、洗剤が標準品によって直接・間接に汚染を受ける可能性があった。このことから、洗剤が汚染されにくいようにボトルに詰め替えて使用することとした。

【まとめ】

モニタリング検査では、牛・豚の腎臓検体は搬入時の袋から取り出すことなくハサミで切り口を作り、そこにペーパーディスクを挟む。一方、筋肉検体は搬入時の袋からまな板に取り出し、包丁を使って手作業で細切した後、ホモジナイズしている。この検体の処理工程の違いが、筋肉検体のみで阻止円を形成したことにつながったと考えられた。

残留物質検査などにおけるコンタミ事例の原因は、多くは抗生物質標準品の混入が考えられる。しかし、今回の事例は、洗剤の混入による阻止円形成が強く疑われた事例であった。更に、混入した洗剤が微量だと、培地の感受性の差により AG 系抗生物質様の阻止円形成パターンを示すことが確認された。

また、器具の洗浄などマニュアル化のなされていない操作は人によって差が生じる。そのため、当所のように検査を複数人で行う場合は、試験法だけでなくこういった操作についても標準化することが、検査成績の信頼性を確保する上で非常に大切である。

今後は、各検査や操作についても検証し、洗浄法のように検査成績に影響を与えそうなものを標準化して、検査成績の信頼性確保に努めたい。

モニタリング検査（簡易検査法）陽性時の原因物質確認のための一手法の提案

食肉衛生検査所 斎藤 愛

はじめに

食肉中の残留抗生物質についての検査は、畜水産食品中の残留抗生物質簡易検査法（改定）（平成6年7月1日付け衛乳第107号）に従って検査（以下、簡易検査法）を行っている。検査の結果、検査用平板（*M. luteus* 平板、*B. subtilis* 平板、*B. mycoides* 平板）に阻止円が確認されたものについては、分別推定法（同通知中「畜水産食品中の残留抗生物質の分別推定法（改定）」を実施している。その系統を推定できた試験品については、「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」（平成17年1月24日付け食安発第0124001号）により当該物質の同定及び定量を行っている。陽性時において、これら一連の検査を行うには最大3日間を要することになる。

そこで、今回、検査の効率を高めるためにも、簡易検査法において阻止円の形成が確認された場合に、得られた試験液を質量分析装置付き高速液体クロマトグラフィ（以下、LC/MS）で分析することで、残留している抗生物質を特定することを検討した。

材料及び方法

1. 試料

抗生物質と合成抗菌剤の残留が認められなかった牛の筋肉を用いた。

2. 試薬

移動相に使用する蒸留水、アセトニトリル、ヘptaフルオロ酪酸(HFA)は HPLC 用、その他試薬は特級品を用いた。分析対象は10種の抗生物質（表1）（以降、各抗生物質を略で表記する）を選んだ。

3. 標準原液及び標準混合液の調整

各標準品 10mg 当量を量り採り、0.005M HFA で 100ml に定容して標準原液とした。この各標準原液を混合し、適宜希釈して混合標準液を作成した。

4. 検量線の作成と定量

混合標準液（SPM、ST、GM、NM、KM、OTC、TC、CTC は 0-5.0 $\mu\text{g}/\text{ml}$ の範囲で 5 点、DST、ABPC は 0-0.5 $\mu\text{g}/\text{ml}$ の範囲で 5 点）を LC/MS に注入し、ピーク高法で検量線を作成した。この検量線を用いて、試験溶液 10 μl を LC/MS に注入し、試験溶液中の各抗生物質の含量を求めた。

表1 抗生物質のLC/MS分析条件

系統	抗生物質	略	Mass	Cone
アミノグリコシド系	スペクチノマイシン	SPM	333	40
	ストレプトマイシン	ST	582	180
	ジヒドロストレプトマイシン	DST	584	180
	ゲンタマイシン	GM	322	35
	ネオマイシン	NM	615	40
	カナマイシン	KM	485	30
テトラサイクリン系	オキシテトラサイクリン	OTC	461	20
	テトラサイクリン	TC	445	20
	クロルテトラサイクリン	CTC	479	20
ペニシリン系	アンピシリン	ABPC	350	20

5. 分析装置

高速液体クロマトグラフ：alliance2695 (Waters 製)、質量分析計：micromass ZQ システム (Waters 製)、解析ソフトウェア：Empower (Waters 製)

6. 測定条件

1) 高速液体クロマトグラフ条件

流量：0.4ml/分、試験液注入量：10 μ l、カラム温度：40°C、分析カラム：Cadenza CD-C18 (粒径 3 μ m、内径 3mm×長さ 15cm、Imtakt 製)、移動層：A 0.005%HFA、B 0.005%HFA 含有アセトニトリル

2) 質量分析計条件

イオン化：エレクトロスプレーイオン化 (ESI+) 法、ソース温度：120°C、脱溶媒温度：350°C、コーンガス流量：50 l/時、脱溶媒ガス流量：350 l/時
各抗生物質における m/z (Mass) 及びコーン電圧 (Cone) (表 1)

7. 試験溶液の調整方法

簡易検査法で得られた試験液 (以下、**試験液**) に 2%トリクロロ酢酸 (TCA) を 20ml 加える。10 分間振とうする。3500rpm×10 分で遠心し、その上清を 200ml ナス型フラスコにデカントで取る。エバポレートにより濃縮及びアセトンの除去を行う。その濃縮液を 50ml 遠沈管に移し、蒸留水を加えて 40ml になるように定容する。3500rpm×10 分で遠心し、ペーパー濾過する。0.1M ヘプタンスルホン酸を 4ml 加えて 30 分振とうし、アミノグリコシド系抗生物質のイオンペアー化を行う。3500rpm×10 分で遠心し、その上清をカートリッジカラム (Bond Elute C18) (メタノール 5ml、蒸留水 10ml でコンディショニングしておく) に負荷する。20ml の蒸留水で洗浄、メタノール 15ml で溶出する。得られた溶出液を濃縮乾固し、0.005%HFA 4ml で溶かす。エッペンチューブに移し 15000G で 10 分遠心し、その上清をフィルター濾過して LC/MS 分析用の試験液 (以下、**調整試験液**) とした。

この調整方法を用いての標準液回収試験の結果は、すべての抗生物質で回収率が 70~120%と良好な成績を得ている (表 2)。標準液は、標準品をアセトンクエン酸緩衝液 20ml

で希釈し、アミノグリコシド系 6 種は 0.5 μ g/ml、テトラサイクリン系 3 種は 0.25 μ g/ml、ペニシリン系は 0.05 μ g/ml に調整した。

表2 標準液の回収試験結果 (n=4)

	検出値 (ppm)				検出値 (ppm)		
	回収率 (%)				回収率 (%)		
SPM	2.05	±	0.07	OTC	0.80	±	0.04
	102%	±	3.45%		79.6%	±	4.47%
ST	2.12	±	0.04	TC	0.83	±	0.03
	106%	±	2.12%		83.0%	±	3.10%
DST	2.11	±	0.03	CTC	0.78	±	0.13
	105%	±	1.30%		78.4%	±	12.8%
GM	1.94	±	0.04				
	96.8%	±	2.20%				
NM	1.71	±	0.05	ABPC	0.094	±	0.003
	85.3%	±	2.72%		93.8%	±	3.15%
KM	1.98	±	0.02				
	99.2%	±	1.03%				

mean ± SE

8. 添加回収試験

牛の筋肉 5g に、アミノグリコシド系 6 種は 10 μ g、テトラサイクリン系 3 種は 5 μ g、ABPC は 0.5 μ g となるように添加した。これは、筋肉中の濃度が、それぞれ 2ppm、1ppm、0.1ppm となり、簡易検査法により得た試験液が検査平板に十分な阻止円（直径 12mm 以上）を形成すると期待される濃度設定である。この添加筋肉での簡易検査法を実施し、各検査平板での阻止円形成を確認するとともに、得られた試験液（簡易検査法の結果が判明するまで、18 時間の冷蔵保存）から調整試験液を作成し、LC/MS で分析した。

結果

添加牛筋肉での簡易検査法は、各検査平板において陽性判定となる阻止円の形成が認められた（表 3）。この試験液から調整試験液を作成し、LC/MS 分析を行った結果、10 種すべての抗生物質を検出することができた。筋肉への添加はアミノグリコシド系 6 種を 2ppm、テトラサイクリン系 3 種を 1ppm、ABPC を 0.1ppm としたが、LC/MS 分析の結果は、アミノグリコシド系 6 種の検出値はごくわずか（回収率で 3.9~16%）であった（表 4）。

表3 簡易検査結果 (n=3)

検査平板	阻止円直径 (mm)
M.luteus	15.6 ± 1.8
B.subtilis	13.8 ± 0.6
B.mycoides	28.5 ± 0.8

mean ± SE

表4 牛筋肉添加回収試験結果 (n=4)

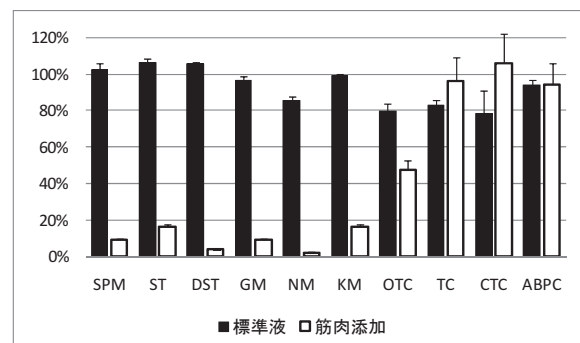
	検出値 (ppm)			検出値 (ppm)	
	回収率 (%)			回収率 (%)	
SPM	0.09	± 0.006	OTC	0.47	± 0.05
	9.0%	± 0.64	TC	47%	± 5.24
ST	0.16	± 0.01	CTC	0.96	± 0.13
	16%	± 1.17		96%	± 13.3
DST	0.04	± 0.003		1.06	± 0.17
	3.9%	± 0.28		106%	± 16.7
GM	0.10	± 0.006	ABPC		
	9.5%	± 0.60			
NM	0.02	± 0.007		0.94	± 0.12
	1.8%	± 0.66		94%	± 11.8
KM	0.16	± 0.01			
	16%	± 1.11			

mean ± SE

考 察

標準液での回収試験結果と牛筋肉添加回収試験の結果(表2と表4)を、回収率のグラフで表した(図1)。TCとCTC、APについては良好な回収率であったが、アミノグリコシド系6種の回収率は20%未満であった。この調整試験液は、簡易検査法の試験液となっており、約18時間の冷蔵保存過程があるため、その間におけるアミノグリコシド系6種の分解も考えられた。しかし、冷蔵保存過程のない試験液から作成した調整試験液の分析結果と比較し、SPMでは検出値の低下は見られたものの、他5種での検出値では差が認められていない。また、筋肉へのDSTのみの添加回収試験(添加濃度10ppm)は、簡易検査法での結果は直径17.4mmの阻止円を形成し、LC/MS分析での検出値は0.5ppmであった。これらの結果から、簡易検査法に用いるアセトンクエン酸緩衝液は弱酸性アセトン含有抽出溶媒という性質から、幅広い化合物の抽出に対応していると考えられるが、アミノグリコシド系抗生物質に対するその抽出力は弱いといえる。しかしながら、本研究の目的は、簡易検査において阻止円を形成した試験液から、その阻止円形成の原因となった抗生物質をLC/MS分析で検出し、同定することにあつた。分析対象とした10種の抗生物質についても、すべてを検出できたことから、本目的は達成した。これは、現在行っている食肉のモニタリング検査において、微生物学的検査法である簡易検査法を補うことのできる分析化学的検査法といえる。今後は、アミノグリコシド系抗生物質の効率の良い抽出方法の検討、そして、アセトンクエン酸緩衝液によって抽出される化合物についての情報を集め、本研究を充実させていきたいと考えている。

図1 標準液と筋肉添加における回収率



3 その他の業務

(1) インターンシップ事業

平成22年度、岐阜大学応用生物科学部獣医学過程の学生2名を初めて受け入れた。(実施要領：次ページ)

(2) 視察・見学等の受け入れ

平成22年度は視察・見学者はなかった。

(3) 実習材料の提供

平成22年度は実習材料の提供はなかった。

岐阜大学獣医学課程学生インターンシップ実習実施要領

岐阜県食肉衛生検査所

1 実習の目的

岐阜大学獣医学課程の学生に対して、岐阜県食肉衛生検査所でのインターンシップ実習を実施し、食肉の安全確保に携わる食肉衛生検査所の業務体験と公衆衛生獣医師の社会的責務について学習する機会とする。

2 対象者

岐阜大学応用生物学部獣医課程 5年生 2名

3 実施日・場所

平成22年8月23日（月）～27日（金） 5日間

岐阜県食肉衛生検査所 大垣市林町3-167-1（・0584-82-2700）

4 実習カリキュラム

日程	時間	時間数	内容	担当
8/23 (月)	9:00～9:20	20分	オリエンテーション	総務課長
	9:20～10:00	40分	施設見学	精密検査担当チーフ
	10:00～11:00	60分	食肉の安全確保と公衆衛生獣医師	所長
	11:00～12:00	60分	食肉衛生検査所の事業概要説明	食肉検査監
	12:00～13:00	60分	昼食・休憩	
	13:00～14:30	90分	と畜検査業務（PowerPointで説明）	検査指導第一担当
	14:30～16:00	90分	食鳥検査業務（PowerPointで説明）	検査指導第二担当
	16:00～16:30	30分	まとめ	
8/24 (火)	9:00～12:00	180分	病理検査の概要	病理検査担当
	12:00～13:00	60分	昼食・休憩	
	13:00～16:00	180分	[実習] 病理標本の作製と観察	病理検査担当
	16:00～16:30	30分	まとめ	
8/25 (水)	9:00～12:00	180分	微生物検査の概要	微生物検査担当
	12:00～13:00	60分	昼食・休憩	
	13:00～16:00	180分	[実習] PCR検査	微生物検査担当
	16:00～16:30	30分	まとめ	
8/26 (木)	9:00～12:00	180分	理化学検査の概要	理化学検査担当
	12:00～13:00	60分	昼食・休憩	
	13:00～16:00	180分	[実習] 薬剤感受性検査とHP-LP検査	理化学検査担当
	16:00～16:30	30分	まとめ	
8/27 (金)	9:00～9:30	30分	BSEスクリーニング検査の概要	BSE検査担当
	9:30～11:30	120分	BSEスクリーニング検査の見学	
	11:30～12:30	60分	昼食・休憩	
	12:30～14:30	120分	[実習] BSEスクリーニング検査	BSE検査担当
	14:30～15:30	60分	意見交換・質疑応答	各職員
	15:00～16:00	60分	まとめ	

* 実習中の休憩は、進捗状況をみて適宜取ります。

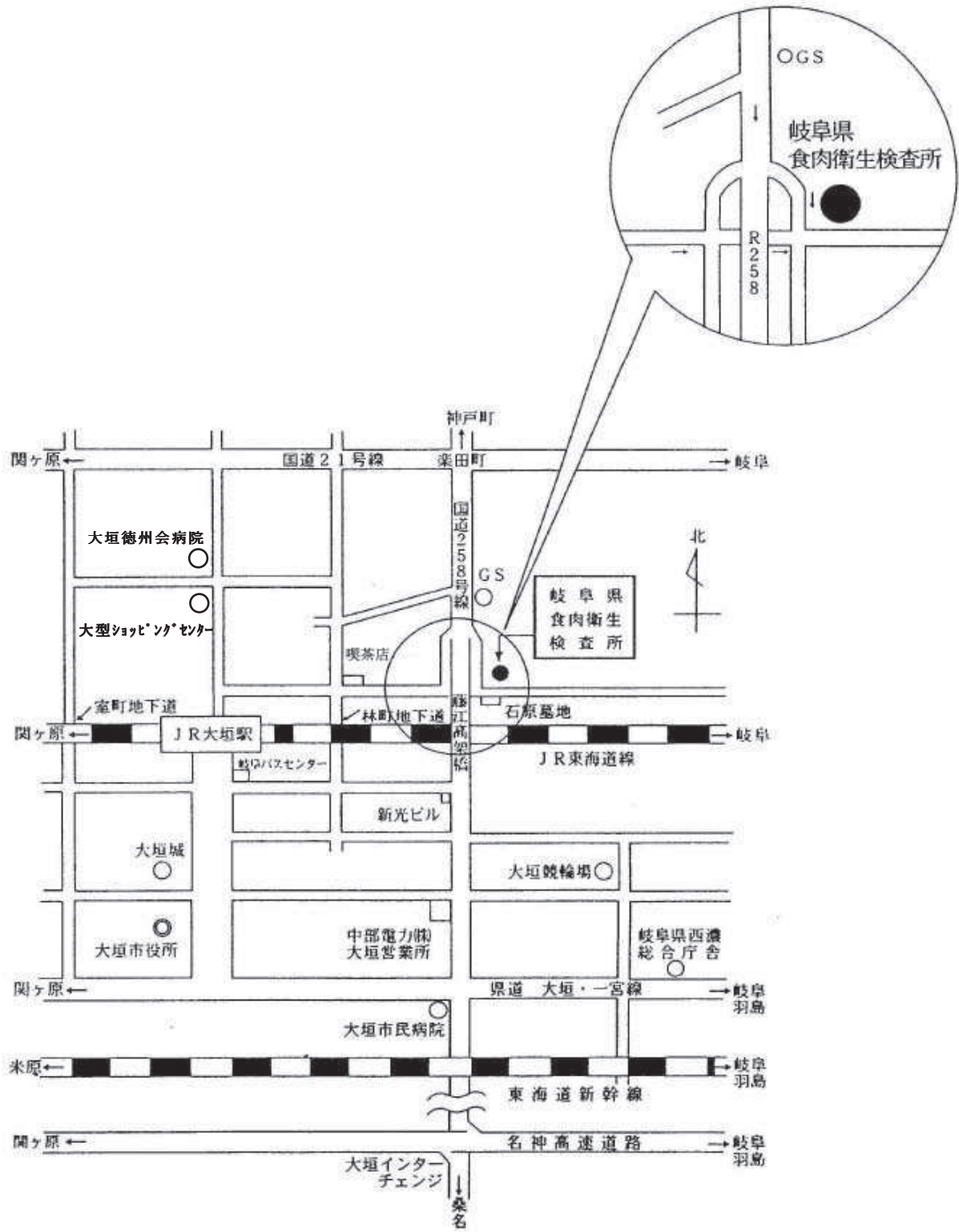
4 平成22年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会開催結果

- 1 日 時 平成23年2月24日（木）午前10時から午後5時
- 2 場 所 岐阜県職員研修所
（岐阜市藪田南5-14-53 岐阜県民ふれあい会館内）
- 3 参加者数 34名
- 4 発表者等

	所 属	発 表 者	演 題
1	関保健所	田 村 直 彦	皮付き豚もも肉製造のためのと畜解体工程の検討
2	関保健所	今 村 圭 太	めん羊特定部位除去マニュアルの作成について
3	飛騨保健所	西 村 知 也	飛騨食肉センターにおける衛生管理について
4	食肉衛生検査所	水 谷 健 士	牛の肺と腎臓にみられた線維肉腫 ～ 牛白血病の鑑別を中心に ～
5	食肉衛生検査所	奥 村 拓 矢	牛白血病の特異症例について ～牛白血病検査マニュアルの改訂～
6	食肉衛生検査所	井 上 紘 子	ベロ毒素（VT）遺伝子を用いたと畜場の衛生管理について
7	恵那保健所	村 井 丈 依	大規模食鳥処理場における衛生対策について
8	岐阜市保健所 食肉衛生検査所	片 桐 浩 治	成鶏から分離されたカンピロバクターのニューキノロン系薬剤耐性
9	食肉衛生検査所	足 立 知 香	カンピロバクター培養法の検討について
10	食肉衛生検査所	大 西 結	モニタリング検査で抗生物質の混入を疑った事例について
11	食肉衛生検査所	齋 藤 愛	モニタリング検査（簡易法）陽性時の原因物質確認のための一手法の提案

岐阜県食肉衛生検査所案内図

JR 東海道線 大垣駅下車 徒歩 10 分



平成 23 年度
(平成 22 年度統計)

事 業 概 要

編集発行 岐阜県食肉衛生検査所
〒503-0015 岐阜県大垣市林町 3-167-1
電話 0584-82-2700
FAX 0584-82-2702
E-mail : c22513@pref.gifu.lg.jp
ホームページ : <http://www.pref.gifu.lg.jp/pref/s22513/syokuniku/>